

平成20年度事業報告

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

実施事業の概要

当財団は、横浜市の文化行政と密接な連携を図りつつ、歴史及び文化財に関する各種の事業を実施し、さまざまな事業改善を行いました。

本年度の企画展においては、絵によって分かりやすく原始・古代の世界を伝える「絵でみる考古学」(歴史博物館)、草花樹木を取り上げた「港町 百花繚乱」(開港資料館)、広く市民から出品を募った「みんなでエキスポ」(都市発展記念館・ユーラシア文化館)など、新しいタイプの展示を試み、好評を得ました。また、開港150周年に向けて準備を進めましたが、年明けには150周年記念と銘打った企画展を開始し(歴史博物館、開港資料館)、100日前講演会を開催しました。

一方、「よこはま歴史かわら版」の発信を始めるなど、インターネットの活用の拡大を図りました。

PDC Aサイクルによる評価・改善システムも軌道に乗るようになり、前年度につき、教育委員会及び財団委嘱の二つの外部評価委員会から、おおむね良好という評価をいただくこともできました。

実施した事業

- I 財団本部事業
 - 本部事業
 - 埋蔵文化財整備事業
 - 発掘調査事業
 - 普及啓発事業
 - 市史資料室事業
 - 諸施設管理運営事業
- II 開港150周年記念事業
- III 歴史博物館事業
- IV 開港資料館事業
- V 都市発展記念館事業
- VI ユーラシア文化館事業
- VII 三殿台考古館事業
- VIII 特別会計事業

I 財団本部事業

20年度も、横浜市の指定管理者として財団独自の事業評価・改善システムを実施することで、より効率的な事業改善に取り組み、平成19年度の実績をさらに伸ばすよう努力を重ねてきました。また、財団施設の安定的な運営を図るため、専門職員の採用を行うとともに、人材の確保、組織の強化・活性化を図るため嘱託職員の固有職員への転換制度を確立し、9名の嘱託の正規職員への転換を図りました。

本部事業としては、横浜市等から埋蔵文化財整理事業・普及啓発事業・発掘調査事業・諸施設管理・市史資料等保存活用業務を受託しました。また、開港150周年を迎えるにあたり、施設間連携を実現する体制を整え、連携講座や各館共同での広報などを実施しました。

各事業報告

1 財団本部事業（寄附行為第4条第8号）

財団管理施設の事業調整や、財団独自の事業評価・改善システムの実施、財団自主研修の実施、理事会・評議員会の開催、外部評価委員会の開催、職員の人事労務・福利厚生管理のほか、八聖殿郷土資料館や市内各史跡の管理を行いました。

- (1) 財団管理施設の事業調整
- (2) 財団事業自主評価・改善システムの実施
- (3) 職員研修の実施
- (4) 理事会・評議員会の開催
- (5) 外部評価委員会の開催
- (6) 職員の人事労務・福利厚生管理
- (7) 八聖殿郷土資料館の管理運営、市内各史跡の管理
- (8) 財団施設案内の作成（1,000部作成）
- (9) その他本部事務

なお、本頁以降、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、「事業内容」欄等をゴチック文字で表記しています。

2 埋蔵文化財整備事業（寄附行為第4条第1・5号）

埋蔵文化財センターで、港北ニュータウン開発に伴う発掘調査で出土した遺物・遺構の整理を行い、成果を報告書にまとめました。

（1）遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
<small>きたがわおもて うえ</small> 北川表の上遺跡の整理 （5／6年次）	整理・報告書作成作業。報告書作成のための遺構挿図・遺物挿図の作成。先土器・弥生・古墳・奈良・平安時代にわたる複合遺跡。先土器時代遺物の集中地点。平成21年度に報告書を刊行する。 現在地：都筑区早瀬3丁目（旧港北区新吉田町）
大榭杉山神社遺跡の整理 （1／2年次）	整理・報告書作成作業。報告書作成のための出土品接合・復元・実測、図面整理・トレース作業を実施。縄文時代中期・弥生時代中期集落ほか。平成22年度に報告書を刊行する。 現在地：都筑区中川中央1丁目（旧港北区中川町）
加賀原遺跡の基礎整理 （1／2年次）	整理・報告書作成作業。報告書作成のための出土品接合・復元等基礎整理作業を実施。縄文時代中期集落ほか。 現在地：都筑区加賀原1丁目（旧緑区池部町）
大原遺跡の基礎整理 （1／2年次）	整理・報告書作成作業。報告書作成のための出土品接合・復元、遺構図面の基礎整理作業を実施。縄文時代中期・弥生時代後期・平安時代集落跡ほか。 現在地：都筑区早瀬1丁目（旧港北区新吉田町）

遺物整理



（2）報告書刊行

項 目	事 業 内 容
<small>はしやうだい</small> 華蔵台遺跡	遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。 作成部数 300部

（3）資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
資料デジタル化	フィルムのデジタル化と整理を実施し、資料保存と活用の利便性向上を図った。35mmカラーリバーサルを優先し、利用頻度の高いものを選定して実施した。 データ化件数：3282カット（大塚遺跡など6遺跡）

出土品保管・再整備	収蔵・保管されている出土品の保管状況を改善するとともに、データ化を進め、活用の利便性を図った。平成20年度は、上白根おもて遺跡（旭区）の出土品の一部を整理し、データ化を進めた。 整理数：木箱等453箱
-----------	---

なお、横浜市事業として埋蔵文化財センター移転準備のため、市内各地にある収蔵資料のうち、一部の移転作業を実施しました。

3 発掘調査事業（寄附行為第4条第3号）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。

（1）発掘調査

事業略名称	遺跡名	所在地	調査区分	委託者
平台貝塚道路拡張事業関連本発掘調査	中区No12遺跡	横浜市中区本牧緑ヶ丘	本発掘調査	中区役所
神奈川台場西取渡り道確認調査 （全2回）		横浜市神奈川区神奈川1丁目	確認調査	神奈川区役所
三溪園内苑流れ保存修理に伴う確認調査		横浜市中区本牧三之谷	確認調査	（財）三溪園保勝会

（2）整理報告書作成

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
三溪園内苑流れ保存修理に伴う確認調査		横浜市中区本牧三之谷	（財）三溪園保勝会	報告書を作成

4 普及啓発事業（寄附行為第4条第2・5号）

港北ニュータウン開発に伴う発掘調査及び公共事業等に伴う発掘調査により出土した遺物・遺構の整理を進め、その成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙発行や、歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを実施しました。

（1）広報

項目	事業内容
『埋文よこはま』の刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信 埋文よこはま18・19（年2回）各11,000部
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、アンケート調査を行った。 アクセス件数 9,037件（前年度8,215件）

(2) 講座・講演会等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
入門講座「都筑区の昔を調べよう」 H20. 7. 29 (火) ～7. 31 (木) 3回連続	夏休み企画として、考古学を基礎から学びたい親子を対象に、考古学の初級講座を実施した。最終回には、文様付けと拓本とり体験も実施した。 7/29 「地域の遺跡を調べよう」 橋本昌幸 7/30 「遺跡に行ってみよう (茅ヶ崎城址見学)」 橋本昌幸・鹿島保宏 7/31 「体験してみよう (文様付けと拓本とり)」 橋本昌幸・水澤裕子 会場：横浜市歴史博物館 参加料：1,500円 参加者：11人
埋蔵文化財周知地域展関連 「研究・成果発表会」 H20. 8. 23(土)	郷土史研究団体 (栄地域史研究会・六人会) との共催事業として実施した。 「発掘から知る古代の栄区」 高野紀美子氏 (六人会) 「研究・成果発表について」 柳下 武氏 (栄地域史研究会) 「発掘調査でわかることー笠間中央公園遺跡等を例にしてー」 鹿島保宏 会場：栄区民文化センター「リリース」会議室 参加料：無料 参加者：30人
横浜市歴史博物館共催特別展 「縄文文化円熟」 関連講演会 講演会 1 H20. 10. 26 (日) 講演会 2 H20. 11. 16 (日)	横浜市歴史博物館共催特別展関連事業として、講演会を実施した。 講演会 1 『海辺の生活と精神文化』 「東京湾の東と西ーその生業と文化交流ー」 忍澤成視氏 (市原市埋蔵文化財センター) 「縄文後晩期の社会と文化」 石井 寛 会場：横浜市歴史博物館 参加料：500円 参加者：70人 講演会 2 『縄文後晩期の社会と文化』 「寺野東遺跡と環状盛土遺構」 江原 英氏 (栃木県教育委員会) 「石を運ぶ・石で築くー中部地方の縄文時代後半期の集落と社会」 佐野 隆氏 (北杜市教育委員) 「縄文時代後期の房総のムラと貝塚」 菅谷通保氏 (茂原市美術館・博物館) 会場：横浜市歴史博物館 参加料：500円 参加者：92人

<p>講座「横浜の考古学」 H20.11.7（金）～11.28（金） 毎週金曜 全4回</p>	<p>本年度は「考古学から見た原始・古代・中世の祭りと祈り」をテーマに、全4回の連続講座を実施した。</p> <p>11／7「縄文時代」 石井 寛 11／14「弥生時代」 安藤広道氏（慶應義塾大学准教授） 11／21「古墳時代」 鈴木重信 11／28「中世」 坂上克弘</p> <p>会 場：横浜市歴史博物館 参加料：2,000円 参加者：134人</p>
<p>「横浜の遺跡展」関連講座 H21.1.10（土）</p>	<p>横浜の遺跡展関連事業として、講演会を実施した。</p> <p>「遺跡の発掘から何がわかるの？－北川貝塚が語る横浜の原始古代－」 山田光洋・古屋紀之</p> <p>会 場：横浜市歴史博物館 参加料：500円 参加者：37人</p>
<p>体験学習</p>	<p>偶数月の最終土曜日と学校の長期休暇に、土器文様の拓本とりと勾玉づくりをセットにした、体験学習教室を開催した。</p> <p>1日2回開催 計14回 参加料：400円 参加者：147人</p>
<p>講師派遣</p>	<p>4／30（水） 鹿島保宏 会場：杉田小学校 6年生社会科学習（杉田東漸寺貝塚）サポーター</p> <p>8／7（木） 橋本昌幸 会場：能見台地区センター 金沢区生涯学習グループ「やまざくら」講師 受講者：80人</p> <p>9／7（日） 橋本昌幸 会場：本牧緑ヶ丘自治会館 平成20年度平台貝塚発掘調査結果報告会 参加者：40人</p> <p>10／25（土） 橋本昌幸 会場：本牧緑ヶ丘町内会館 平成20年度平台貝塚発掘調査結果報告会 参加者：25人</p> <p>10／15（水） 石井 寛 会場：横浜市歴史博物館 かながわ考古学同好会「縄文文化円熟」展示解説 参加者：20人</p> <p>10／25（土） 鈴木重信・山田光洋 会場：横浜市歴史博物館 神奈川県考古学会 第32回神奈川県遺跡調査・研究発表会</p> <p>12／12（金） 石井 寛 会場：岩宿博物館 2008年度岩宿大学第4講</p>

	<p>12 / 12 (金) 鈴木重信 会場：茅ヶ崎小学校 4年生社会科学習（港北ニュータウンの成り立ち）サポーター</p> <p>1 / 30 (金) 31 (土) 鈴木重信 会場：奈良文化財研究所 独立行政法人国立文化機構 平成20年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会</p> <p>2 / 6 (金) 山田光洋 会場：財団法人かながわ考古財団本部研修室 全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ党研究委員会</p>
--	---



考古学入門講座



体験学習

(3) 展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
<p>「地面の下にはナニかあるー栄・戸塚区の遺跡」展 H20.8.20(水)～8.31(日) 会期12日</p>	<p>栄・戸塚区の遺跡等について、出土品とパネルで紹介した。関連事業として、パネル展や体験学習（土器文様の拓本とり・勾玉づくり）を実施した。 会場：栄区民文化センター 来場者：1,207人 パネル展（8/15～8/22） 会場：戸塚地区センター</p>
<p>「鶴見区の埋蔵文化財」展 H20.9.20(土)～10.2(木) 会期13日</p>	<p>鶴見区の獅子ヶ谷遺跡・八千代田横穴墓群について、出土品とパネルで紹介した。 会場：鶴見図書館（参考：会期中の入館者数 10,969人）</p>
<p>「都筑区の埋蔵文化財」展 H20.11.18(火)～11.28(金) 会期11日</p>	<p>都筑区の大高見遺跡・小高見遺跡について、出土品とパネルで紹介した。 会場：都筑図書館（参考：会期中の入館者数 29,553人）</p>

<p>横浜市歴史博物館共催特別展 「縄文文化円熟－華蔵台遺跡と後・晩期社会－」展 H20.10.4(土)～11.24(祝・月) 会期45日</p>	<p>横浜市歴史博物館との共催で、華蔵台遺跡の出土品・パネル等により縄文時代後晩期を紹介した。 会場：横浜市歴史博物館企画展示室 観覧者数：5,569人</p>
<p>平成20年度「横浜の遺跡」展 H20.12.13(土)～H21.1.18(日) 会期25日</p>	<p>都筑区の北川貝塚を取り上げ、「遺跡の発掘から何がわかるの？－北川貝塚が語る横浜の原始古代－」と題して実施した。関連事業として講演会を開催した。 会場：横浜市歴史博物館 観覧者：3,199人</p>
<p>「大丸遺跡と南区の遺跡」展 H21.1.124(土)～1.25(日) 会期2日</p>	<p>六ッ川台コミュニティハウス・横浜市三殿台考古館との共催事業として、大丸遺跡と周辺遺跡採集品を中心に、矢畑遺跡・清水ヶ丘遺跡出土品等を展示した。関連事業として、体験学習（土器文様の拓本とり・勾玉づくり）を実施した。 会場：六ッ川台コミュニティハウス 観覧者数：93人 体験学習参加者数：19人</p>



「横浜の遺跡」展



「地面の下にはナニかある」展

(4) 遺跡見学会の実施

事業略名称	参加者	所在地	委託者	備考
<p>神奈川台場西取渡り道確認調査 (全2回)</p>	<p>7 / 6 200人 11 / 15 300人</p>	<p>横浜市神奈川 区神奈川1丁 目</p>	<p>神奈川区役所</p>	<p>資料配布</p>

神奈川台場西取渡り道見学会



(3) 利用状況（平成19年度は、平成20年1月9日のオープン後の利用状況）

項目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
入室者数（人）	1,139	419	—
資料閲覧室利用者数（人）（注1）	191	38	—
複写申込件数（件）	347	84	—
レファレンス件数（注2）	189	91	—
電話レファレンス件数	153	31	—

（注1）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、公開資料の閲覧室とは別室

（注2）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

(4) 普及啓発事業

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』（No.2～No.4）を刊行（各5,000部）した。資料提供者（機関）、及び関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容のPDFファイルをホームページ上でも公開した。
展示会の開催	『横浜市史Ⅱ』編集関連資料及び「横浜の空襲と戦災」関連資料を活用し、横浜にあった軍事基地、横浜から出征していった兵士、さらに、戦後の占領など、様々な観点に立った展示会「横浜の戦争と戦後」を8月15日から9月19日まで開催した。
講演会の開催	首都圏形成史研究会との共催で、「市民のための近現代史を目指して」をテーマに、金原左門氏による講演会「神奈川県自治体史の課題」及びシンポジウム「神奈川県自治体史編さん」（栗田尚弥氏・井上洋一氏・羽田博昭、司会高村聡史氏）を、開催した。

6 諸施設管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市の歴史・文化財関連諸施設の維持管理及び運営を行いました。

(1) 八聖殿郷土資料館事業

項目	事業内容
連続講座の開催	本牧地域の歴史を中心に、歴史講座を開催した。 毎月第3土曜日開催（全12回） 参加料：無料 参加者：176人
集中講座の開催	月1回の連続講座に参加できなかった市民を対象に、連続講座3回分を集約した講座を開催した。 7・10・1月第2土曜日、3月第4土曜日開催（全4回） 参加料：無料 参加者：74人
歴史散歩の開催	連続講座で取り上げた地域を中心に、実際に現地へ赴いて、散策しながら地域の歴史について解説した。 第1回 9/13（土） 回想・開港前の神奈川湊と本牧 参加者：26人

	第2回 2/28(土) 近世と近代がクロスする町・浅間下 参加者：28人
学校連携	近隣の小学校にアンケート調査を行い、資料館利用方法について検討した。
八聖殿郷土資料館ブログの開設	ホームページの施設紹介のページとは別に、八聖殿郷土資料館周辺の情報をブログ形式で紹介し、郷土資料館の周知に努めた。

(2) 横浜市八聖殿郷土資料館入館者の推移

項目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市八聖殿郷土資料館(人)	9,366	8,009	8,095

(3) 史跡等の管理運営

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

7 共同広報の実施

項目	事業内容
メルマガ「よこはま歴史かわら版」の配信	各施設の企画展などの情報を登録者にネット配信した。また、アンケートに回答し、来館するとプレゼントを進呈するなどの登録者サービスを実施した。 1回/月、臨時号 7回
共同広告獲得の取組	各館の年間作成チラシ・ポスターに、企業広告を獲得できるよう、広告代理店と協議し広告媒体の販売委託をした。
スタンプラリーの実施	150周年記念「ハマの七福神めぐりスタンプラリー」を実施した。歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館・ユーラシア文化館をめぐり、クイズに回答しスタンプをそろえた方に福袋を進呈した。 実施期間：1月5日～4月5日 福袋進呈者：368人

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	各館と調整し共同広報を実施しました。昨年度に続き財団外部評価委員会を開催し、業務の改善を図りました。	A
埋蔵文化財事業	港北ニュータウン地域所在遺跡について、前年度に作業を終了した1遺跡の報告書を刊行し、予定通り2遺跡の整理作業を実施しました。この他、先行して2遺跡の出土品等の基礎整理に着手することができました。また、平成20年度から開始した記録資料のデジタル化事業と出土品の保管・再整備事業も順調に実施できました。	A
普及啓発事業	展示では、地域を対象とした「地面の下にはナニかある」展や図書館等でのミニ展示をはじめ、歴史博物館との共催特別展などを実施しました。講座・講演会や体験学習も予定通り実施できました。 「地面の下にはナニかある」展では、地元の郷土史団体との協働を試みました。また、南区六ツ川台コミュニティハウスで遺跡展を共催するなど、計画外の事業も実施しました。体験学習では、ほぼ隔月の最終土曜日を開所して実施するなど、積極的な事業展開が図れました。	A
発掘調査事業	発掘調査は、当初予定の1件のほか2箇所3件が追加され、積極的に対応することができました。整理報告書作成については、事業局の事情により、平成21年度実施予定と変更されました。	A
市史資料室事業	閲覧室の利用者数は順調に増加していますが、事業計画の見込みまでは達していないため、運営方法、利用者見込みなどを見直す必要があります。	D
諸施設管理運営事業	八聖殿郷土資料館では、講座の開催やブログの開設により入館者が増加しています。	A

(注) 評価について

各事業について、平成20年3月28日財団理事会・評議員会で決定した事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しております。

- A：予定通り実施（達成度80%超） B：ほぼ実施（達成度80%以下）
C：改善事項あり（達成度60%以下） D：要見直し（達成度50%以下）

II 開港150周年記念事業

平成21年に迎える「横浜開港150周年」を記念して、財団として実施する「出版」「企画展示」「講演会等」を軸とする記念事業を進めました。

各事業報告

1 開港150周年記念事業（寄附行為第4条第2・5号）

（1）開港150周年記念事業の準備

項目	事業実績等
出版	プロジェクトチームによる検討を踏まえ、書名を『横浜 歴史と文化』として原稿の執筆を完了し、制作を進めた。
企画展示・講演会等	記念展示として位置づける各館の企画展示テーマや、連携企画、講座・講演会の開催方法について検討した。

（2）施設間連携事業の実施

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
通史講座 「横浜の歴史」 H20.5.14（水） ～H20.6.11（水） 毎水曜 5回連続	各回 107人	財団各施設の連携事業として、専門職員による通史講座を行った。 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
開港150周年記念 プレ講座 「海上交通の歴史と 横浜」 H20.6.18（水） ～H20.7.16（水） 毎水曜 5回連続	各回 145人	横浜の港にまつわる5回の連続講座を開催した。 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
横浜開港150周年 記念100日前講演 会 H21.2.22（日） 「横浜開港の謎に迫 る」	354人	開港150周年100日前記念事業として、横浜開港にまつわる特別講演会を開催した。 場所：横浜市開港記念会館 講師：山崎洋子、藤森照信 参加料：1,000円

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
開港 150 周年記念 事業	記念出版については、財団の総力を挙げて取り組み、予定どおり出版準備が行われました。 連携講座については、参加見込者数が目標を下回りましたが、講演会は目標を上回っており、全体としては目標を達成しました。	A

Ⅲ 歴史博物館事業

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、資料の修繕・燻蒸等は着実に実施しました。また調査研究事業も13本が行われ、その成果は講座・講演会、企画展の開催に利用されました。

企画普及事業では、巡回展を含む6本の展覧会を開催する一方で、学校団体による利用促進のための月曜日開館、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。また、市民協働では、地元の郷土史の会や企業との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動に加えて、新たに事業支援ボランティアの試行も行いました。

開港150周年の年となる21年の1月からは、記念企画展の第一弾として「黒船・開国・社会騒乱一日記にみる150年前の横浜一」を実施しました。

管理運営面では、横浜市のエスコ事業により館内空調設備等の更新が行われた結果、経費節減の効果が上がりました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・顧客満足度が上がり、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

横浜市歴史博物館における展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（1）資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 1,023 件 4,150 点 寄託 0 件 0 点	主な収集資料：箕・背負い籠・鋤・鍬・千歯扱き・石臼など農具、絵はがき類、古文書、旅行案内記、観応元年銘板碑、講中道具、のれん・レコードなど生活道具類 ほか
実物資料の購入	10 件 32 点	主な収集資料：曾我物語絵巻、武清山水図巻物、橘樹郡神大寺村文書、佐久間象山書簡、傾城道中双六(神奈川・程ヶ谷、戸塚)、東京横浜名所一覽、常陸風土記 ほか

レプリカ製作	2件2点	水野到秋軍忠状 平城京跡出土「武蔵国荏原郡」木簡
マイクロ撮影	3,300コマ(複製7本 製本18冊)	萩原家文書 松沢家文書(製本のみ)
資料の修繕・保存	2件2点	「北条家船手判朱印状」裏打ち 赤羽刀「薙刀 武州下原住広重」1振の研磨
資料の整理活用(収集 資料のデータ入力)	14,438件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用(収集 資料の貸出)	18件176点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵 資料の貸出を行った。
図書資料の公開	3,872件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行 った。
写真資料の撮影・整理	撮影数1,550カット 新規登録件数3,100件	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資 料の撮影と整理・登録を行った。
画像資料の貸出	貸出件数70件220点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の 貸出を行った。

(2) 資料収集内訳

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	6 (1)	— (—)	48 (2)	— (—)	54 (3)	1,916 (1,862)
工芸品 (点)	— (—)	— (—)	— (1)	— (—)	— (1)	132 (132)
彫 刻 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (20)
書 跡 (点)	1 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)	46 (45)
典 籍 (点)	1 (42)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (42)	3,859 (3,858)
古文書 (点)	23 (—)	1 (2)	1,601 (43)	— (—)	1,625 (45)	31,164 (29,539)
古記録 (点)	— (2)	— (—)	— (—)	— (—)	— (2)	39 (39)
絵 図 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	159 (159)
歴史資料 (点)	1 (—)	— (—)	2,456 (826)	— (—)	2,456 (826)	10,648 (8,192)
考古資料 (点)	— (25)	1 (2)	1 (—)	— (—)	2 (27)	1,027 (1,025)
民俗資料 (点)	— (33)	— (—)	44 (166)	— (—)	44 (199)	7,474 (7,430)
図書文献資料 (点)	100 (147)	— (—)	2,452 (1,947)	— (—)	2,552 (2,094)	53,682 (51,130)
合 計	131 (251)	2 (4)	6,602 (2,985)	— (—)	6,735 (4,915)	110,166 (103,431)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成20年	平成19年	平成18年
閲覧室利用者数(人)	8,131	9,774	10,569
複写申込件数(件)	531	708	528
複写枚数(枚)	6,019	9,017	6,152
レファレンス件数(件)	392	461	401

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
横浜市歴史博物館収蔵庫(1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

2 調査研究事業(寄附行為第4条第1号)

収集資料の整理や、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
墓域出土の土器の研究	歳勝土遺跡など弥生中期出土の土器は、器種組成が特徴的で、弥生後期になると焼成後の底部穿孔など、古墳祭祀を想起させるような行為の痕跡を見ることができる。このような変化は具体的にいつ起こったのかを研究する。
合戦物語絵巻の多角的研究(3/3年次)	館蔵「六波羅合戦絵巻」などの特徴を明確化することを目的として、3年目となる本年度は、有職故実研究、武器・武具研究の視点からその特徴を探った。3年間の成果は、調査報告V o L. 3・4・5に掲載し、市民に公開した。また、19年度に実施されたテーマ展示「合戦絵巻」は、研究初年度の成果を活用したものであった。
印融著作の基礎研究(3/3年次)	館蔵の印融著作の版本・写本類の価値や類本中の位置づけを明らかにすることを目的として、本年度も所蔵本の書誌的検討・分析、類本の所在確認調査を行った。また、当館所蔵の『作法集口決』2冊の翻刻を行い、1冊分を報告書に掲載した。3年間の成果は、調査報告V o L. 3・4・5に掲載し、市民に公開した。
誠拙周樗関係資料の研究(1/3年次)	誠拙資料とともに古月派の関係資料も収集し、近世後期に横浜で活躍した禅僧たちの事績を明らかにすることを目的として、本年度は資料の全容把握の一環として、既刊の調査報告書等から関係

	資料を抽出し、絵画・墨跡の一部を報告書に掲載した。
軍記物語の研究（20年度新規事業）	当館所蔵の軍記物語の一つ「北条太平記」は、鎌倉時代の承久の乱をテーマにし、その時代の武士たちの活躍をえがいたものである。江戸時代作成された他の軍記物語と比較することで、所蔵資料の特徴を分析した。
東海道屏風・絵巻の基礎研究（3／3年次）	館蔵の東海道屏風・絵巻の資料的な位置づけ、全国的な視野の中で、分類・体系化し、その資料的な位置づけを図ると共に、その作成・利用年代及び製作意図を考察した。3年間の成果は、調査報告V o L. 3・4・5に掲載し、市民に公開した。

（2）基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
杉山神社関係資料の収集と研究（2／3年次）	杉山神社に関する古代からの史料を収集、検討することにより、各時代における神社の位置づけを明らかにすることを目的に、本年度は史料の収集と合わせて先行研究の収集を行った。
浄土宗檀林資料の基礎研究（3／3年次）	市内浄土宗僧侶の内外での活躍を明らかにすることを目的に、本年度も引き続き、増上寺に所蔵される神奈川成仏寺・慶運寺などの市内寺院の史料12点を調査・撮影した。そのうち5点を報告書に翻刻掲載した。3年間の成果は、調査報告V o L. 3・4・5に掲載し、市民に公開するとともに、各種講座・講演会の基礎資料として活用した。
「香蔵院珎祐記録」の基礎的研究（2／3年次）	室町時代には鶴岡八幡宮の塔頭のひとつであり、横浜市神奈川区の神奈川湊付近に所領を持っていたと考えられる香蔵院の院主珎祐の記録を採り上げ、この資料を熟読し、室町時代の横浜の姿の一端を明らかにした。
武州金沢藩に関する基礎資料の分析（2／3年次）	市域に本拠を有する唯一の藩である武州金沢藩について、当館所蔵の武州金沢藩士萩原家文書中に含まれる同藩藩庁文書を分析することで、同藩の近世後期～明治初年の実態を検討した。
日記・御用留の基礎研究（3／3年次）	市域に残る日記・御用留類から、19世紀を中心とした政治、社会情勢と横浜の民衆との関わりについて明らかにすることを目的として、まとめに当たる本年度は対象を「金川日記」に絞り、集中的に分析を行った。3年間の成果は、調査報告V o L. 3・4・5に掲載し、市民に公開した。「金川日記」は、紀要13号で翻刻・紹介を行った。開港150周年記念企画展「黒船・開国・社会騒乱―日記にみる150年前の横浜―」は本研究の成果を公開したものである。
船釘の比較研究（20年度新規事業）	和船の建造に欠かせない船釘について、横浜市と他地域との差異について、種類、製造、地域差などの視点から比較研究するため、本年度は他地域のヒアリングを行った。

市民協働による市域の民俗調査 (20年度新規事業)	市民協働事業の一環として、市民調査員(仮称)を組織し、市域の民俗調査を実施することを目指し、本年度は民俗学の入門講座を開催し、民俗に関心のある市民を集めていくことを行った。
------------------------------	--

(3) 横浜の歴史をテーマにした調査研究：企画展開催に向けての調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	21年度に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	21年度に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	21年度に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。
「横浜開港 150 周年」関連展示の検討	21年度に開催予定の中世のミナトに関する展覧会と近世の交通路に関する展覧会の計画立案、基礎資料の確認を行った。

(4) 資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。
調査報告書の作成・刊行	調査研究で蓄積した基礎データ等を『調査研究報告 VOL. 5』として刊行した。

3 常設展事業(寄附行為第4条第2号)

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・ビデオ機器の保守点検を実施し、円滑な博物館運営を行いました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：287名(全12回)
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：127人(全6回)

(2) 常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者(人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
20年度	14,084	1,331	14,188	29,603	46,875	76,478	100.5%	311日	246
19年度	16,157	1,236	14,444	31,837	44,243	76,080	84.0%	309日	246
18年度	19,461	1,151	18,810	39,422	51,145	90,567	128.5%	309日	293

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

常設展示を補うテーマや新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民が横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「絵でみる考古学—早川和子原画展—」 H20. 4. 5(土) ～H20. 5. 18(日) 会期 42 日	大人 200 円 大高中 100 円 小学生以下は無料	22,890 人 1日あたり 545 人	「考古復元イラストレーター」として有名な早川和子氏の旧石器時代から平安時代にいたる原画作品 117 点を一堂に展覧し、考古学や埋蔵文化財・遺跡への関心を深めてもらうことを意図した。大塚・歳勝土遺跡を題材とした新作 3 点も展覧。平成 19 年度の夏から開始された当館をふくむ 11 館による巡回展であった。 ① 講演会 4/26 日(土) 「考古イラストレーターってなに？」 講師：早川和子氏 参加費：500 円 参加者：39 人 ② 早川和子氏によるギャラリートーク 4/27(日) 参加費：無料 参加者：63 人 ③ たのしいイラスト教室 5/6(日) 参加費：500 円 参加者：20 人 ④ 小学生向けリーフレットの作成。団体見学小学校への説明とアンケートを実施。イラストの人気投票の実施。 ⑤ 関連図録の委託販売 定価 2,000 円 売上 200 部 ⑥ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
企画展「古代のムラの神・仏」 H20. 5. 31(土) ～H20. 7. 6(日) 会期 32 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 200 円	9,866 人 1日あたり 308 人	市域をはじめ東国で出土した祭祀遺物を中心に、古代国家における祭祀の展開とムラの社・祭りのあり方を展覧すると同時に、古代のムラへの仏教の浸透の状況や特徴を探り、神祇信仰との習合の様相などを紹介した。 ① 講演会 6/15(土) 「古代のムラの仏教施設」 講師：笹生 衛氏（千葉県教育委員会） 参加料：500 円 参加者：69 人 ② 講演会 6/22(土)

			<p>「古代相模・武蔵のムラと神々」 講師：関 和彦氏（國學院大學講師） 参加料：500円 参加者：73人</p> <p>③遺跡見学ツアー「香取・鹿島神宮と古代の常陸を訪ねて」 6/12（土） 参加料：4,000円 参加者：45人</p> <p>④フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説） 2回 参加者：49人</p> <p>⑤ 図録等刊行物の作成 1,500部作成 定価700円 売上 426部</p> <p>⑥ 小学生向けパネル（2か所）の作成。団体見学小学校への説明とアンケートを実施。</p> <p>⑦ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）</p>
<p>企画展「お願い！かみさま、ほとけさま—小絵馬に見るひとびとの願い—」 H20. 7. 26(土) ～H20. 9. 15(月) 会期 45 日</p>	<p>大人 400円 高大 300円 小中 200円</p>	<p>5,143人 1日あたり 114人</p>	<p>カミやホトケへの祈願のかたちの一つに小絵馬があり、今でもそれはくらしの中に息づいている。展示では、子どもたちにも興味を持てるようにしながら、絵馬から読みとることができるさまざまな人々の願いを紹介した。また都筑阪急百貨店の協賛をえた。</p> <p>① やさしい展示解説（フロアレクチャー） 3回 参加者：33人</p> <p>② 関連ツアー「小絵馬をたずねて」 8/31（日） 参加費：1000円 参加者：13人</p> <p>③ 研究講座 9/7（日） 「絵馬とはなにか」 講師：岸上興一郎氏（駒沢大学講師） 資料代：300円 参加者：45人</p> <p>④ 参加型の展示コーナーとして「絵馬でお願いしてみよう」を設置。観覧者全員に小絵馬を配り、実際に願い事を記して掛けてもらった。会期中企画展示室には3,394枚、協賛してもらったモザイクモール港北には406枚の小絵馬が掛けられた。</p> <p>⑤ 展示室内に「今週の逸品」というコーナーを設け、週替わりで特定のテーマに沿った絵馬を紹介した。</p> <p>⑥ モザイクモール港北の協賛を得て、7月26日から8月10日の期間限定で企画展の有料観覧者にモザイクモール観覧車の無料乗車券を提供（1,008枚）した。</p> <p>⑦ 図録等刊行物の作成</p>

			<p>1, 500部作成 定価500円 売上 222部 ⑧ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)</p>
<p>特別展「縄文文化円 熟—華蔵台遺跡と 後・晩期社会—」 H20.10.4(土) ~H19.11.24(月) 会期45日</p>	<p>大人 500円 高大 300円 小中 100円</p>	<p>5,569人 1日あたり 124人</p>	<p>港北ニュータウン地域内の華蔵台遺跡を中心に関東地方の遺跡を交えて、社会が成熟し、精神文化も非常に発達した縄文代後期から晩期の社会像を、集落復元や祭祀遺物・遺構などを通して明らかにした。</p> <p>① 講演会 10/26(日)「海辺の生活と精神文化」 ・「東京湾の東と西」 講師：忍沢成視氏 (市原市埋蔵文化財センター) ・「縄文後晩期の社会と文化」 講師：石井 寛氏 参加費：600円 参加者70人</p> <p>② 講演会 11/16(日)「縄文後晩期の社会と文化」 ・「寺野東遺跡と環状盛土遺構」 講師：江原 英氏 (栃木県教育委員会) ・「石を運ぶ・石で築く」 講師：佐野 隆氏 (北杜市教育委員会) ・「縄文時代後期の房総のムラと貝塚」 講師：菅谷通保氏 (茂原市立美術・博物館) 参加費：800円 参加者92人</p> <p>③ バスツアー「石の文化を訪ねて」 10/16(木) 参加費：4000円 参加者31人</p> <p>④ バスツアー「華麗な耳飾りを訪ねて」 11/6(木) 参加費：4000円 参加者28人</p> <p>⑤ フロアレクチャー (担当学芸員による展示解説) 2回 参加人数：64人</p> <p>⑥ 図録等刊行物の作成 1, 500部作成 定価1, 300円 売上 453部</p> <p>⑦ 特別展に関連して、10/11(土)・12(日)に「土偶づくり」の体験学習、11/1(土)に土器野焼きを実施した。</p> <p>⑧ 同時期に縄文関係の特別展を開催した大田区郷土博物館とは、相互のポスター・チラシで宣伝協力を行った。</p> <p>⑨ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)</p>

<p>平成 20 年度「横浜市指定・登録文化財展」 H20. 12. 13(土) ～H20. 1. 18 (日) 会期 25 日</p>	<p>無料</p>	<p>3, 199 人 1 日あたり 128 人</p>	<p>平成 20 年度に新たに指定・登録された文化財を展示して市民に公開した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。</p> <p>①フロアレクチャー 2 回 参加者：30 人</p> <p>②干支土鈴展示（エントランスホールで、平成 20 年と 21 年の干支の土鈴を展示）</p>
<p>開港 150 周年記念企画展「黒船・開国・社会騒乱一日記にみる 150 年前の横浜一」 H21. 1. 31(土)～ H21. 3. 15(日) 会期 44 日</p>	<p>大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円</p>	<p>7, 982 人 1 日あたり 181 人</p>	<p>開港 150 周年の幕開けであるこの時期にあたり、近世後期の横浜およびその周辺で起こったさまざまな出来事を、佐藤汶栖が記した「金川日記」を主たる題材とし、庶民の視点からとらえ直して、紹介した。</p> <p>① 講演会 2 / 14 (土) 「情報時代幕末の特質」 講師：宮地正人氏（前国立歴史民俗博物館館長） 参加料：500 円 参加者：97 人</p> <p>② 研究講座「佐藤汶栖をめぐる人々」 3 / 1 (日) ・「ふるさと久保村時代」 講師：相沢雅雄氏（地域史研究者） ・「歌会活動を中心に」 講師：増田恒男氏（司馬遼太郎記念館学芸部長） 参加料：500 円 参加者：121 人</p> <p>③ ウォーキングツアー「開港前後の神奈川宿を訪ねて」 2 / 26 (木) 参加料：700 円 参加者：29 人</p> <p>④ フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説） 5 回 参加人数：105 人</p> <p>⑤ 埋蔵文化財センターの協力を得て、会期中、神奈川台場発掘に関するパネル展を行った。</p> <p>⑥ 後援の横浜郷土史団体連絡協議会の会員向けの展示解説を実施した。</p> <p>⑦ 当館の古文書解読教室の 0B 会である「横浜古文書を読む会」で、数年来「金川日記」などの日記や御用留を解読してきており、本展示はその成果を還元する場でもあった。</p>

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者 (人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
20年度	8,115	585	6,090	14,790	39,860	54,649	97.0%	233日	235
19年度	12,912	683	6,305	19,900	36,424	56,324	73.1%	224日	251
18年度	16,745	610	13,316	30,671	46,319	76,990	154.7%	235日	328

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H20.10.3(金) ～H20.12.5(金) 毎金曜 10回連続	各回 47人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：井上攻、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
古代史講読講座 H21.1.15(木) ～H21.2.12(木) 毎木曜 5回連続	各回 49人	日本古代史の主要な問題について関係史料を読み解く講座を行った。 講師：平野卓治 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
古文書解読講座(上級) H21.1.15(木) ～H21.2.12(木) 毎水曜 5回連続	各回 52人	古文書解読の経験がある人を対象に、内容を重視した上級講座を行った。 講師：斉藤 司 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
土器づくり教室 H21.2.15(日) ～H21.3.28(土) 全4回	各回 16人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。また、完成作品の展示会を開催した。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：3,500円
出張土器づくり教室	153人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内2校の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 6/26(木)、7/17(木)、10/28(木) 宮谷小学校 10/22(水)、10/30(木)、12/2(火) 下末吉小学校
竪穴住居に泊まろう H20.9.6(土) ～9.7(日)	30人	小学生とその親を対象に遺跡の復元住居で、火起こしや遺跡解説、竪穴住居に宿泊する体験教室を行った。 参加料：大人1,500円、子供700円 参加者：9世帯30人
開館14周年記念特別 講演会 H21.2.8(日)、 11日(水)	291人	開館14周年を記念して特別講演会を行った。 「古代国家と文字文化—東アジア交流の原点“文字”—」 平川南氏(国立歴史民俗博物館長・山梨県立博物館長)

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	58,231人	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。 常時開催：銅鐸鳴らし、石臼で粉ひき、火打石、あかり比べ等 ミニ展示 ・私たちが作った縄文土器展 4/2(水)～4/13(日) ・江戸時代の旅 7/3(木)～9/30(火) ・どき土器縄文展 10/1(水)～11/28(金) ・ちょっと昔を探してみよう 11/29(土)～3/31(火)
体験コーナー H19.4.9(水) ～H19.6.27(金)		無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、エントランスホール・復元住居等で、火起こし体験や貫頭衣を試着したりできるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 土日開催 21日42回	1,128人	300円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 勾玉づくり、土偶づくり、小田原提灯づくり、凧づくり、草履編み、紙すき体験、万祝染体験等
古代人体験 H20.8.9(土)	33人	300円	小学校5・6年生を対象に、火起こしや竹の食器作り・勾玉作りなど古代人の体験を行った。都筑区役所と都筑区青少年指導員連絡協議会と共同主催。
日産スタジアム勾玉作りワークショップ H20.9.13(土)	99人	100円	横浜マリノス株式会社と協働で、日産スタジアムに出張し勾玉作りのワークショップを実施した。
体験広場	367人	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 8/24(日)、11/1(土)、3/28(土)



小田原ちょうちん作り・マリノスケ参上



日産スタジアム・勾玉作り

(5) 「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H20. 8. 3 (日) H20. 8. 24 (日) 1日3回	154人	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学、等

(6) 「ふるさと横浜探検」の実施

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
よこはま事始め 野毛地区	H20. 4. 24 (木)	32人	開港場に隣接した横浜野毛地区を探訪した。 参加料：700円
旧東海道保土谷宿の歴史散歩	H20. 5. 22 (木)	35人	旧東海道の保土谷宿を中心に周辺を探訪した。 参加料：700円
香取・鹿島神宮と古代の常陸を訪ねて	H20. 6. 12 (木)	44人	企画展関連事業として、古代常陸方面の史跡を探訪した。 参加料：4,000円
谷本川と寺家の里山を訪ねて	H20. 10. 18 (木)	23人	里山の残る鶴見川流域を自然観察をしながら探訪した。参加料：一般700円、小学生300円
旧東海道島田・金谷宿と蓬莱橋を訪ねて	H20. 11. 20 (木)	38人	大井川を挟む旧東海道の島田・金谷宿と観光スポット蓬莱橋を訪ねた。参加料：4,000円
開港150周年記念バスツアー 早春の伊豆半島—開港前夜の港町伊豆下田と河津桜を訪ねて—	H21. 2. 19 (木) ～20 (金)	26人	開港150周年企画として開港ゆかりの伊豆下田を中心とする1泊2日のバスツアーを実施した。 参加料：29,800円

(7) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
博物館感謝デー	H21. 1. 31 (土)～ 2.1(日)	2,193人	常設展示室・企画展示室の無料開放、聞いてみよう(常設展、土器パズル、赤外線カメラなど)、作ってみよう(勾玉)、ビデオ上映会、土器復元体験、ショップフェア
ラストサタデープログラム	毎月最終土曜日 (全12回)	474人	学芸員による常設展示解説。3(1)記載のとおり5/31、6/28エントランス外にて火起こし体験実施。参加187人。

(8) エントランスホールコンサートの実施

横浜市歴史博物館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、博物館エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事業実績等
第14回コンサート 「ハープによる夏の旅」 H20. 7. 19(土)	演奏者：川崎かぐや (ハープ) 来場者数：231人
第15回コンサート 「クリスマス・おら・トリオ」 ～オーボエ、ヴァイオリン、ピアノで奏でるクリスマス～ H19. 12. 22(土)	演奏者：関水萌子 (オーボエ)、下城瑠五子 (ヴァイオリン)、原田愛 (ピアノ) 来場者数：201人



開港150周年記念企画・伊豆宿泊バスツアー



第15回エントランスコンサート

(9) 遺跡公園ガイドボランティアの活動支援

項 目		事 業 内 容		
ガイドボランティア事業		<p>・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園・旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。</p> <p>①ガイド登録者数：57人</p> <p>②登録期間 2年間（5期生 平成19・20年度）</p> <p>③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一 般 60分間</p> <p>・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、事業支援ボランティアを試行した。</p> <p>4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動。 48日。 19人登録。</p>		
ガイドボランティア研修の実施		<p>・館外研修会・研修講座等を開催した。</p> <p>・本年度は第5期の2年目で、活動期間は、平成19年4月1日～21年3月31日。</p>		
項 目		平成20年度	平成19年度	平成18年度
活 動 実 績	ガイド実施日数(日)	302	299	301
	解説回数(回)	952	925	979
	1日平均解説回数(回)	3.04	3.1	3.2
	参加者数(人)	30,008	27,763	28,297
	団体対応(件)	336	332	322
	団体のうち学校数(校)	288	298	287

(10) 学校連携事業の実施

横浜市歴史博物館の学校利用を促進するために、エドゥケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」を運営し、展示資料案内の作成、教師向けと児童向けのホームページの作成、区別展示物の児童向け資料作成を行いました。また、「吉田新田」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、新たに、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事 業 内 容 等
学校の博物館利用研究会 第1回 H20. 7. 5(土) 第2回 H20. 8. 16(土) 第3回 H20. 12. 13(土) 第4回 H21. 2. 28(土)	①横浜市小学校社会科研究会所属の教員5名及び関係職員で構成。区ごとの常設展示物と史跡紹介資料作成を行った。 ②子供向け、教師向けのホームページの作成をした。 ③歴史博物館をはじめ、他館についての利用方法も検討した。
教職員専門研修 H19. 8. 2(木)	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：41人

月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田出前授業	10/28(火) 中区立野小学校 3クラス 124人 10/30(木) 都筑区南山田小学校 4クラス 155人 11/18(火) 金沢区関東学院小学校 2クラス 78人 11/21(金) 南区太田小学校 2クラス 62人 11/27(木) 瀬谷区瀬谷小学校 4クラス 147人 11/28(金) 青葉区つつじが丘小学校 3クラス 96人 12/2(火) 南区六つ川西小学校 3クラス 94人
常設展示室吉田新田説明	10/8(水) 港北区高田小学校 3クラス 82人 10/17(金) 港北区日吉南小学校 3クラス 83人 10/23(木) 青葉区鳴志田第一小学校 2クラス 62人 10/24(金) 青葉区青葉台小学校 3クラス 87人 11/7(金) 都筑区都筑小学校 4クラス 124人 11/14(金) 緑区山下みどり台小学校 3クラス 91人 11/26(水) 青葉区あざみ野第二小学校 3クラス 97人 12/12(金) 港北区新吉田第二小学校 2クラス 53人
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8/5(火) 66人 8/26(火) 48人
各区社会科研究会への事業	5/14(水) 港北区社会科研究会 25人 「絵でみる考古学」の見学・研修 7/23(水) 青葉区社会科研究会 26人 「展示物を生かした教材開発」 7/23(水) 泉区社会科研究会 20人 「吉田新田探索」現地研修 8/28(水) 港南区社会科研究会 25人 「吉田新田現地研修会」

(11) 小・中学校団体利用の推移

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
学 校 数 (校)	452	425	506
児 童 ・ 生 徒 数 (人)	41,639	37,695	44,741

(12) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 (A日程) 期間：H20.5.18(日)～11.22(土)の内、9日間 受入数：5人

	(B日程) 期間：H19.7.30(水)～8.26(火)の内、8日間 受入数：11人
社会研修の受け入れ	生徒・学生の社会体験・研修等を受け入れた。 7/2(水) ハートフルスペース都筑 30人 10/15(水) 相模原市立共和中学校 5人 12/5(金) 横浜市立盲支援学校 4人 1/22(木) 横浜市立中川中学校 4人 1/28(水) 横浜市立東山田中学校 2人 H20.2.27(金)～3.10(火)フェリス女学院大学 2人

(13) 広報出版

項目	事業内容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内(年2回) 通史展示解説シート
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース(年1回) 20,000部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第17集 700部作成 横浜市歴史博物館 紀要第13号 800部作成
その他広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつり、センター北まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による5施設紹介の広報 FM放送への情報提供 横浜開港150周年記念グランドミュージアム参加 埋文センター・三殿台考古館との連携チラシ「よこはま古代人ワールド」による広報 年賀郵便への広告掲載による広報

5 情報事業(寄附行為第4条第4・5・6号)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数 合計 14,438件 ・インターネット公開

	収蔵資料情報の公開 合計 50件(前年度52件) 図書文献資料情報の公開 合計 3,013件(前年度2,634件)
映像資料の公開	スタディ・サロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 97,666件(前年度96,144件)

6 管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）横浜市歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
横浜市歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸 スタディサロン・歴史劇場の運営 講堂、研修室の貸出 主な修繕：ITV改修工事 所在地：都筑区中川中央一丁目
横浜市歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」の管理 所在地：都筑区大榎西

（2）講堂・研修室利用の推移

項 目		平成20年度	平成19年度	平成18年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	26,152	15,773	17,957
	利 用 件 数 (件)	154	116	80
	うち有料貸出件数(件)	18	29	13
研 修 室	利 用 者 数 (人)	7,525	8,377	6,919
	利 用 件 数 (件)	301	231	175
	うち有料貸出件数(件)	198	136	91

(3) 駐車場の経営（7月から）

来館者用駐車場を経営しました。条例改正に伴い、駐車場料金は利用料金となり、これまで特別会計の事業でしたが、7月から一般会計の事業となりました。（館内32台、屋外140台）

項目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
利用台数（台）	5,275 (7,341)	9,557	12,422
月あたり利用台数（台/月）	586 (612)	796	1,036
料金収入（千円）	2,085 (3,014)	3,850	4,939

20年度実績数は、7月からの数字。（ ）内は年間の実績。4～6月は特別会計事業（p68）に掲載
18・19年度は、特別会計事業における実績。

(4) 横浜市歴史博物館野外施設入場者の推移

項目		平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市歴史博物館野外施設（人）		61,701	59,835	63,654
内 訳	大塚遺跡（人）	56,203	55,338	57,349
	工房（人）	5,493	4,497	6,305

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈等による資料収集を行うと共に、複製資料の制作やマイクロフィルムなどによる収集を行いました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進め、保管環境の維持につとめました。また、画像資料の有料貸出も継続し収入の向上を図りました。	A
調査研究事業	収蔵資料に関する調査研究を6本、地域資料に関する調査研究を7本実施し、その成果は報告書・紀要等として刊行すると共に、一部は講座・講演会、企画展等に反映させました。また、21年以降の企画展の基礎調査を実施しました。	A
常設展事業	日常的なメンテナンスにより常設展示室内の展示環境を整えると共に、活性化・リピーターの獲得を目的に、学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説などを実施しました。入場者数の達成率は、当初事業計画で上げた観覧者見込み数の99%でした。	A

企画普及事業	巡回展を含む企画・特別展等の展示事業、各種体験学習等の普及事業を予定通り実施しました。特に市民協働においては、ボランティア活動の拡大を目指して、21年度実施の事業 支援ボランティアの試行を行いました 。また、横浜開港150周年記念事業の一環として、他館に先駆けて企画展や関連バスツアーを実施しました。各事業ともアンケート調査等によれば、高い満足度が得られています。	A
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を実施しました。インターネットへのアクセス数は、当初事業計画で上げた見込み数の 135%増 となりました。	A
管理運営事業	博物館・遺跡等施設の維持管理を適切に実施しました。講堂や研修室の利用件数が前年度を大きく上回りました。	A

IV 開港資料館事業

当館は、開港ならびに都市横浜発展の原点であり、さらには日本の開国と近代化の出発点ともいえる「日米和親条約」締結の地に立地し、数多くの関係資料を所蔵する「開港150周年」を象徴する施設として活動しています。

開港150周年を迎えるにあたり、企画展示は「開港150プレリュード」と題した3つの企画展示（「ハリスと横浜」、「白船来航」、「港町百花繚乱」）を開催し、開港150周年を迎えた平成21年1月からは「開港150周年記念」と題した第1弾として「横浜開港と宣教師」展を開催しました。

開港150周年にちなみ、展示のほかにも「たまくす」の保護育成を図る「たまくすプロジェクト」や横浜郷土史団体連絡協議会をはじめとする協働事業などの自主事業を実施すると同時に、横浜市が主催する開港150周年記念各事業での監修・資料提供・講演会講師派遣・原稿執筆、またマスコミ・雑誌等への複製資料貸出・取材・撮影・記事連載・監修など、自主企画以外にも多岐にわたるニーズに対応しました。

資料収集、調査研究は事業計画どおり実施しました。常設展示室の新収資料コーナーも定着し、即応的な資料紹介を行いました。

これらにより、研究成果、資料の普及、「開港150周年」とともに当館の周知を図ることができ、観覧者数も前年度比15%増と、大幅な増加となりました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈4件 339点 寄託4件 261点	主な収集資料：田野井昭子家文書300点、猪熊浩平家文書116点ほか
資料の購入	45件 268点	主な収集資料：「横浜居留地地図」
資料のマイクロ化	9件 (4,098コマ)	主な複製（マイクロ撮影）資料：岩沢家所蔵資料
資料の保存処理・修繕	1件 1点	開港直後の横浜を描いた肉筆画の修復
資料の分類・整理	古文書など 約1,200点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類整理した。
資料のデジタル化	約300点	横浜植木株式会社関係図譜を中心に、画像資料及び各種資料情報のデジタル化を実施した。

文献資料のコンピュータ検索の実施	1, 532件	所蔵文献資料のデータベース化、閲覧室での検索システムの整備を行った。
閲覧室における資料の公開	閲覧室利用者 3, 873人 書庫内資料の出納 5, 272件	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開を行った。
写真資料・画像資料の撮影・整理	撮影件数(33点) 日本絵入商人録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影と整理・登録を行った。
複製フィルム等の貸出	貸出件数810件 3, 703点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料(点)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	1, 851 (1,851)
政府資料(点)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	16, 137 (16,137)
海外資料(点)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	13, 024 (13,024)
文書・記録(点)	8 (28)	6 (5)	339 (1,442)	261 (25)	641 (1,500)	73, 276 (72,662)
新聞資料(点)	19 (34)	3 (-)	— (1)	— (-)	22 (35)	9, 711 (9,689)
横浜絵・写真等(点)	37 (33)	6 (7)	— (3)	— (2)	43 (45)	31, 059 (31,016)
コレクション(点)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	50, 165 (50,165)
文献資料(点)	204 (168)	2 (3)	— (2)	— (-)	206 (173)	55, 854 (55,648)
合 計	268 (263)	17 (15)	339 (1,448)	261 (27)	885 (1,753)	251, 077 (250,192)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の貸出実績

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
出版社(一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への貸出	810件	579件	447件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
閲覧室利用者数(人)	3, 873	3, 614	2, 921
複写申込件数(件)	2, 748	1, 938	1, 607
複写枚数(枚)	47, 403	44, 540	40, 795
レファレンス件数(件)	3, 251	2, 823	2, 187

(5) 資料の保管

項目	目的・意図 及び 内容・成果
害虫防止策	収蔵庫・展示室窓に紫外線防止フィルム貼付、害虫忌避剤の散布
環境検査	5回/年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
横浜開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫他	マイクロフィルム、器物資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。調査研究項目を一部組替・統合しましたが、当初事業計画の所期目的を達成しました。

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史 ・幕末・明治期の史跡と古記録の研究（3/5年次）	①21年度第1回企画展示「港都横浜の誕生」の準備。 ②長野県の生糸貿易関係資料の調査など古文書所在調査を実施。 ③横浜の歴史を普及するための新聞連載（神奈川新聞・読売新聞ほか）。
横浜近代政治史 ・横浜市政史の研究（3/5年次）	①横浜近代史研究会と協働で瀬谷区を中心とする資料調査を行い、新資料の収集・整理と分析を進めた。 ②昭和初期の「港湾」「商工会議所月報」等の雑誌記事の収集、動画の収集などを行った。 ③研究の成果を『開港のひろば』や研究紀要で報告した。
横浜近代経済史 ・茂木商店関係資料及び興行関係資料の研究（3/5年次）	①研究成果を企画展「港町 百花繚乱」として公開した。 ②株式会社横浜植木関係資料（カタログ類など）のスキヤニングをおこなった（約300枚）。 ③「熱海之日記」の分析を実施し、紀要で報告した。
横浜近代文化史 ・横浜の教育史に関する調査 ・横浜の出版、及び出版文化に関する調査（3/5年次）	①研究成果を企画展「横浜開港と宣教師」として公開した。 ②「春鴻の短冊」を収蔵資料コーナーで紹介した。 ③神奈川新聞社刊『おもろ遠眼鏡～庶民の見た幕末・明治』の編集を行った
横浜近代欧米関係史 ・横浜外国人社会に関する研究（3/5年次）	①研究成果を企画展「ハリスと横浜」として公開した。 ②横浜アマチュア演劇クラブ関係資料を収蔵資料コーナーで紹介した。 ③ブルーム・コレクション（追加）と幕末英駐屯軍士官旧蔵資料の目録を完成し、図説や新聞連載記事に執筆し公開した。またブラウン論文集の原稿執筆・編集をおこなった。

横浜近代アジア関係史 ・ 横浜在留華僑・華人に関する研究（3／5年次）	①研究成果を企画展「白船来航」として公開した。 ②横浜華僑のオーラルヒストリーの記録化を中華会館と協議しながら進めた。 ③中華街関係の研究成果を紀要や新聞などで公表した。
歴史情報に関する研究 ・ 明治・大正期の横浜関係情報に関する研究（3／5年次）	①明治41年の新聞記事からアメリカ大西洋艦隊に関する記事を収集した。 ②『横浜貿易新報』記者廣田花崖の資料調査を行った。

（2）委託調査

項目	委託先	目的・意図 及び 内容・成果
横浜と周辺郡部を対象とした地域研究と経済貿易史に関する研究（3／5年次）	横浜近代史研究会 (代表 大豆生田稔)	①橘樹郡・都筑郡の地域資料の調査と分析 ②横浜の経済・貿易に関する調査研究（商工会議所蔵書・生糸関係資料の調査・分析など） ③横浜の市政史に関する調査研究（関連雑誌の記事目録データベースの整備） ④地域の旧家に残された日記・演説原稿などの解読と分析
幕末・明治初年の貿易史と古記録に関する調査研究（3／5年次）	横浜史料調査研究会 (代表 井川克彦)	①江戸時代に作成された古文書を所蔵する旧家の調査（保土ヶ谷区軽部家ほか） ②開港資料館が所蔵する和本などの整理 ③シイベル・ブレンワルド商会の日記翻訳 ④市外の機関が所蔵する古文書の調査（長野県上田市上丸子飯沼区有文書ほか）
横浜外国人社会に関する調査研究（3／5年次）	横浜外国人社会研究会（代表 大西比呂志）	①横浜居住外国人関係者の調査とインタビュー ②外務省外交史料館が所蔵する大正期の外国人に関する資料の調査 ③マイクロフィルム（オーストラリア国立図書館蔵 横浜在住外国人関係資料）の調査 ④横浜居住外国人リストのデータベース化など

（3）研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
横浜開港資料館 紀要 第27号	1,250部	1,529円	当館専門職員による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・論文「都筑郡における二大政党化の進行過程」 ・史料紹介「熱海之日記」ほか

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移

	有料入館者 (人)				無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	小中	観覧室	計					
20年度	40,316	8,827	1,715	50,858	18,132	68,990	115.6%	303日	228
19年度	32,111	10,339	1,626	44,076	15,588	59,664	101.3%	302日	198
18年度	33,827	8,527	1,358	43,712	15,143	58,855	122.0%	302日	195

(2) 新収蔵資料や新発見資料紹介コーナーの設置

常設展示室の一角に、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設け、調査研究の成果をいち早く紹介しました。

項 目	内容・成果
資料紹介	H20. 3. 12 (水) ~ 5. 18 (日) The Far East Vol. 1 よみがえる明治初頭の横浜 H20. 5. 27 (火) ~ 8. 23 (土) グランド・ホテルの面影 H20. 8. 28 (木) ~ 9. 15 (月・祝) 関東大震災写真帳 H20. 9. 17 (水) ~ 11. 30 (日) 春鴻の短冊 H20. 12. 2 (火) ~ 2. 28 (日) 横浜アマチュア演劇クラブ関係史料 H21. 3. 2 (火) ~ 4. 19 (日) 橘樹郡を支えた人びと関係史料

(3) 旧館エントランスホール等の整備

旧館エントランスホールへ音声ガイドを設置しました。また、開港150周年を迎えるにあたり、スタンドサインの改修や、記念室(領事室)を公開する準備を実施しました。

4 企画普及事業(寄附行為第4条第2・4・5・6・8号)

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要・資料集・書籍出版等で発表しました。また、市民との協働を積極的に進め、講演会の実施や会報の作成指導等を行いました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
ハマの謎とき —地図でたどる横浜150年 H20. 1. 30(水)~H20. 4. 20(日) 20年度中会期18日	3,872人 1日あたり 215人	地図の中に街の成り立ちに関わる9つの謎の答えを探しながら、近代横浜の姿を紹介した。
開港150プレリュード ハリスと横浜 H20. 4. 23(水)~H20. 7. 27(日) 会期83日	21,420人 1日あたり 258人	初代駐日総領事ハリスを中心に、横浜開港を決定づけた条約締結の経過を紹介した。 ①企画展関連講演会の実施
開港150プレリュード 来航100周年記念 白船来航	17,329人 1日あたり 225人	100年前の大西洋艦隊横浜来航を通して、当時の横浜の街と人々の姿を紹介した。日本財団から助成金1200千円を得て開催した。

ー米国大西洋艦隊にわく 100 年前 の横浜・東京 H20. 7. 30(水)～H20. 10. 26(日) 会期 77 日		①フロアレクチャー 1 回実施 9/13(土) 主要展示品のレヴィーン・コレクション の所蔵者スティーヴィン・レヴィーン氏による展 示解説
開港 150 プレリユード 港町 百花繚乱 横浜から広がる「緑花」文化 H20. 10. 29(水)～H21. 1. 25(日) 会期 71 日	15,913 人 1 日あたり 224 人	19 世紀～20 世紀初頭の横浜市民が、どのように 花と緑に親しんだか、そして横浜港が大きな比重を 占めた植物園芸貿易と日欧間の文化交流について紹 介した。 ①企画展関連講演会の実施 ②展示図録の作成
開港 150 周年記念 横浜開港と宣教師 翻訳聖書の誕生 H21. 1. 28(水)～H21. 4. 19(日) 20 年度中会期 54 日	10,451 人 1 日あたり 193 人	修好通商条約締結後、横浜に来日した宣教師たちが 行った聖書翻訳の歴史を通じて、当時の人々に与え た文化的な影響を明らかにし、また当時の出版文化 や世相を紹介した。 ①フロアレクチャー 3 回実施 ②企画展関連講座＋コンサート「横浜のオルガンと 讃美歌」の実施 (H. 21. 4. 4)

(2) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
資料講読講座 「個人の記録から見 る時代一日記を読む」 H21. 1. 17 (土) ～H21. 2. 7 (土) 毎土曜 4 回連続	48 人	館蔵資料 (今回は日記) を使って、資料の読み解き方を解説する 集中講座を実施した。 1/17 「伊勢商人と横浜―竹川竹斎日記を読む」 齋藤多喜夫氏 (元横浜開港資料館調査研究員) 1/24 「明治時代の教員と雑誌―布川悦五郎の日記から」 上田由美 1/31 「日記にみる大正後期の鶴見町」 松本洋幸 2/7 「豪商野澤屋の熱海旅行―「熱海之日記」」 平野正裕 受講料：2,000 円
市民団体との共催講 座 (調査研究員と市民 団体のメンバーが講 師となる講座、横浜郷 土史団体連絡協議会 の関連事業)	66 人	「古文書一九会」との共催講座「変動の時代といそご」 10/5 「当時の文書を読む」 油井宏子 (NHK 学園古文書講師) 10/24 「明治の磯子」 松本洋幸 10/31 「幕末維新の磯子と金沢」 西川武臣 受講料：1,000 円
たまくすプロジェク ト H21. 1. 20 (火)	35 人	横浜市環境創造局との協働で、近代横浜のシンボルのたまくすを 次世代へ継承するために、苗木の植樹と樹勢回復を行った。 今年度は土壌回復及び育て親と苗木植え替え作業を実施した。

<p>講演会 企画展「ハリスと横浜」記念講演会 H20. 6. 1 (日)</p>	<p>77人</p>	<p>企画展開催に合わせ、専門研究者がハリスと通商条約締結、横浜開港に関する最新の研究成果を講演した。 「ハリスと横浜開港」 西川武臣 「ハリスと江戸」 吉崎雅規氏(港区立港郷土資料館学芸員) 受講料：500円</p>
<p>関連講座 企画展「花と緑のヨコハマ」関連講座 H20. 11. 22 (土) ～H20. 12. 13 (土) 毎土曜 4回連続</p>	<p>61人</p>	<p>横浜における園芸文化の交流について理解を深める連続講座を開催した。 11/22 「シーボルトが観察した横浜の自然と人々の生活」 石山禎一氏(元東海大学講師) 11/29 「明治の都市緑花」 近藤三雄(東京農業大学教授) 12/6 「横浜居留地の花屋さん」 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員) 12/13 「近代横浜の花と緑のおはなしあれこれ」 平野正裕 受講料：2,000円</p>
<p>観光人材育成講座 「横浜博士になろう」</p>	<p>70人</p>	<p>講座と現地解説 横浜ボランティアガイド協会、横浜コンベンションビューローとの共催で、観光にかかわる人材を育成することを目的に実施。 全6回 2/21 「中華街の道」伊藤泉美 2/28 「祈りの道」石崎康子 全6回中2回を開港資料館職員が担当 受講料：3,000円。</p>



たまくすプロジェクト
苗木の植え替え

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
「GHQ情報課長ドン・ブラウンとその時代－昭和の日本とアメリカ」	1,000部	4,200円	館蔵「ドン・ブラウンコレクション」の調査研究を委託した横浜国際関係史研究会と委託終了後も共同研究を進めてきたが、その研究成果を民間出版社と共同出版し、出版費用・編集作業の軽減、販路拡大をはかった。
「おもろ遠眼鏡 庶民の見た幕末・明治」	—	1,470円	神奈川新聞に調査研究員らが執筆した連載をまとめ、神奈川新聞社より発行。
展示図録『港町 百花繚乱』	1,000部	600円	企画展示「港町百花繚乱」展示図録 本展示と関係の深い横浜植木株式会社より、出版補助金100,000円を得て刊行した。

「港町百花繚乱」
展示図録



(4) 市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び横浜開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成18年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。(平成20年度末現在、加盟51団体)

項目	事業内容等
横浜市郷土史団体連絡協議会との共催事業	<p>①研修会 第9回：4/9(水)・16(水) 第10回：6/25(水) 第11回：10/1(水) 第12回：2/18(水) 全4回 参加者：のべ 186人</p> <p>②横浜郷土史連絡協議会 News の発行9号～12号</p> <p>③神奈川宿遊学セミナー 2008年度連続講座「神奈川の暮らしと文化」(全6回)などへの講師派遣</p> <p>④共催講座の開催「変動の時代といそご」</p> <p>⑤金沢区生涯学習“わ”の会の「古文書を読む会」と古文書解読テキスト「金沢の諸家文書」を編集・刊行、テキストは開港資料館で販売</p>



郷土史団体連絡協議会
研修会の様子

(5) 新聞社各社への記事連載

項 目	事 業 内 容 等
読売新聞・神奈川新聞への記事連載	読売新聞・神奈川新聞で平成19年度から連載している「横浜の開港と都市の発展」について20年度も連載を継続中である。読売の連載は、横浜都市発展記念館調査研究員など他施設と共同で行っている。 ①読売新聞神奈川県版 「横浜150年を見る」日曜日不定期連載 ②神奈川新聞特集版 「横濱開港新聞」12頁の企画もの、年3回発行

(6) 資料情報等の発信

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページ上で資料情報の公開を行った。 新たに①「横浜歴史画像集（パノラマ）」30点／②「キッズページペリーが横浜にやってきた」約120点を掲載し、その資料内容を紹介した。とくに②は、エドゥケーターの協力の下に、小学生対象のわかりやすい内容紹介になるよう努めた。

(7) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8/26（火）～8/31（日）（6日間） 受入数：11人

(8) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第100号～103号（年4回）合計55,000部

リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用) 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用) 横浜開港資料館催し物案内
その他広報	インターネットによる広報(後述) メールニュースによる催し物などの情報発信を開始 ①東急線150周年記念車両(みなとみらい線、東横線、田園都市線)での電車内ポスター掲示 ②市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 市営地下鉄電車内ポスター掲示、各駅構内掲示版利用 市営地下鉄駅PRボックスへのチラシ掲出 ③みなとみらい線日本大通り駅構内の広報案内看板利用 みなとみらい線駅構内のパンフレットラック、ポスター掲示 ④市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤市内小中高校へのポスターチラシ配布 区校長会への企画展事業案内 区連会掲示板へのチラシ掲出 ⑥一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への記事掲載 ⑦TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑧企画展後援新聞紙(連載)・市広報誌等への記事掲載 ⑨2009 神奈川ゲストイネーションキャンペーンへの事前広報 ⑩フィルムコミッション等に協力し、撮影場所を提供 ⑪各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動

5 情報事業(寄附行為第4条第4・5・6号)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
インターネットによる情報公開	ホームページの内容、体裁を一新し、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を行った。 アクセス件数 合計125,339件(前年度94,129件)

6 管理運営事業(寄附行為第4条第5号)

横浜開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜開港資料館	施設の維持管理 主な修繕：旧館記念室・旧館ホール・喫茶室屋根・貴重書庫壁面 ガラス・旧館1階廊下壁面等、案内スタンドサイン 所在地：中区日本大通3

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	600点の古文書・古記録を市内の旧家から寄贈・寄託の形で収集しました。また、原物資料での収集が困難な場合は、マイクロフィルムでの撮影をおこない、4,000コマ以上の古記録を撮影しました。こうした活動を通じて所蔵者との信頼関係が高まっています。また、開港150周年を迎えることもあり、複製フィルムの貸出も順調です。	A
調査研究事業	7名の調査研究員がおこなう調査研究事業のほか、外部研究者に委託しての調査研究活動も予定通りの成果をあげました。これらの成果は調査研究員が展示・講座・紀要などで公表するほか、新聞連載でも市民に公開しました。委託研究会のひとつである横浜国際関係史研究会と当館との共同編集で日本経済評論社から論文集を刊行しました。	A
常設展事業	毎日新聞と共同で「震災直後ノ写真目録」の調査をおこない、震災記念日9月1日前後に、新収蔵・新発見資料コーナーに同資料を展示するなど、計6回のコーナー展示を実施し、このコーナーの充実が図られました。また、常設展の一部修復をおこないました。	A
企画普及事業	企画展示は予定通り4回実施しましたが、1回目・3回目の展示では関連講座を開催しました。展示入館者は、事業計画案で見込んだ数字の110%、対前年度比15%を達成しました。また、事業収入も1643万円の見込みに対して42%増の2347万円となりました。主な収入としては、入館料854万円、複製資料貸出649万円、出版物売上げ456万円、コピー料金175万円があります。また、横浜市郷土史団体連絡協議会との協働事業も順調に発展し、21年度に協議会と当館の共催で開催予定の開港150周年記念事業であるシンポ・講演会・パネル展示の準備も進んでいます。	A

情報事業	メールニュースによる情報発信も順調です。 また、HPにキッズコーナーを新設し、小中学生の来館促進をはかるなど、内容・体裁を一新したことで、アクセス数が対前年度比30%以上と格段に増加しました。	A
管理運営事業	日常の維持管理業務のほか、貴重書庫の壁面のガラス窓の修復をおこないました。	A

V 都市発展記念館事業

開館5周年を迎えた今年度は、より市民に親しまれる施設となるように、さまざまな記念企画を実施しました。

企画普及事業では、ユーラシア文化館と共催で企画展「みんなでエキスポ」を開催し、一般から広く「思い出の宝物」を募集して、出品者の思いを綴った文章とともに展示しました。国内外から160件を超える応募があり、「なつかしい昭和の横浜」「国際都市横浜で異文化を知る」という両館のコンセプトに相応しい品々が集まりました。

また、展示にあわせて両館の広報誌の合併号を製作し、開館から5年間の歩みをたどる内容としました。このほか、近隣の事業者と共同で、中庭を舞台としたアートイベント「日本大通りURANIWA-Labo」を開催し、中庭の有効利用を図るとともに、旧第一玄関でのパネル展示「旧横浜市外電話局の80年」や、日本大通り駅コンコースでの鉄道写真展など、施設の内外で関連事業を実施しました。

秋には、鉄道駅と都市形成との関わりをテーマに、企画展「横浜ステーション物語」を開催しました。市民に親しみのある横浜駅を取り上げたことで、多数の来場者があり、ミュージアムショップでの鉄道書籍フェアも好評でした。

常設展示事業では、開館5周年記念として、新収蔵資料を用いて「都市形成」ゾーンを大幅に更新し、掘り出し物コーナーも、企画展のテーマにあわせて更新を行いました。

インターネットを用いた広報事業では、昨年度から開始したメールニュースの内容を大幅に拡充したほか、ブログを開設して、展示の見どころや日常業務などについて、各担当者がタイムリーに情報発信をするようにしました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

横浜の都市形成の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 233点	主な収集資料：「横浜在住記念」絵葉書アルバム
資料の購入	69点	主な収集資料：「復興の横浜」（写真帖）
資料の採集	115点	主な収集資料：旧露亜銀行横浜支店関連遺物
資料の複製収集	0点	主な複製資料：
複製資料の提供・資料の貸出		複製資料提供 31件55点 （うち有料18件22点） 実物資料貸出 4件35点

(2) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	0 (-)	0 (-)	5 (250)	0 (-)	5 (250)	1,185 (1,180)
図書	53 (29)	0 (-)	1 (1)	0 (-)	54 (30)	1,767 (1,713)
新聞雑誌	0 (7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (7)	1,789 (1,789)
文書	0 (6)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (6)	2,562 (2,562)
紙票類	1 (7)	0 (-)	52 (10)	0 (-)	53 (17)	1,530 (1,477)
写真	0 (-)	0 (-)	146 (57)	0 (-)	146 (57)	5,549 (5,403)
絵葉書	3 (20)	0 (-)	24 (40)	0 (-)	27 (60)	1,974 (1,947)
地図	5 (32)	0 (-)	5 (1)	0 (-)	10 (33)	581 (571)
図面	7 (9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	7 (9)	932 (925)
絵画	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
映像	0 (-)	0 (-)	0 (1)	0 (-)	0 (1)	24 (24)
録音資料	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	167 (167)
電子資料	0 (10)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (10)	11 (11)
合 計	69 (120)	0 (-)	233 (360)	0 (-)	302 (480)	18,071 (17,769)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	震災復興期の建築青焼図面224点の保存修復処置 ガスランプ・コレクションの燻蒸
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査を実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
横浜都市発展記念館・横浜ユー ラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 画像資料の公開

横浜市域を写した明治後期から昭和期の絵葉書のデジタル画像を、ホームページ上で公開。今年度は100点の画像を公開。次年度以降、公開点数を拡大し、これまでにデジタル化の終了した600点を公開予定。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つのテーマに即して、資料調査および整理・研究を行いました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
近代遺跡調査（3／3年次）	本年度は、ジェラール瓦研究の重要な参考資料となる模倣ジェラール瓦の木製押型を所蔵する、埼玉県深谷市の瓦製造業者宅の調査を行った。調査結果については、『横浜都市発展記念館紀要』5号に掲載した。
横浜建築博覧データベース化にかかる調査研究（2／3年次）	各時代の歴史情報を集積する「デジタルマップ」作成の基礎作業として、本年度は明治・大正期の関内地区の建築を対象として、写真の収集・複製化を行った。
生活用具から見た昭和の生活史に関する調査研究（3／5年次）	企画展「みんなでエキスポ」に出品された資料の記録化を行ったほか、年度途中からテーマを「昭和戦前期の横浜のモダニズム」に絞り、関連する研究文献・史料の収集と分析を行った。成果については、『横浜都市発展記念館紀要』5号に掲載した。
昭和期の写真・映像に関する調査（1／3年次）	21年度以降活用するため、所蔵資料の整理、デジタル画像への変換、および分析を行う。本年度は、映像資料（おもに神奈川ニュース）の整理、編集作業を行った。デジタル化の終了した「神奈川ニュース」は次年度から公開を開始する。
大倉精神文化研究所の建設に関する共同研究（3／3年次）	大倉精神文化研究所との共同研究により、新発見資料の整理と分析を進めた。成果は次年度の企画展「横浜建築家列伝」および関連事業のなかで公開する。

（2）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。
調査報告書の作成・刊行	調査研究の成果を『横浜都市発展記念館紀要』5号に掲載した。

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室の維持管理を行うとともに、新たに収集した資料や出土遺物などを「掘り出し物コーナー」で紹介し、集客と来館者サービスに努めました。

（1）常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
更新	① 「都市形成ゾーン」の拡充 6月 開館5周年記念「新収蔵資料展示」 ②掘り出し物コーナーの更新 6月 「横浜生まれのフランス瓦」 11月 「横浜市電・昭和ノスタルジア」

(2) 常設展示観覧者の推移

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
20年度	9,317	1,606	10,923	6,208	17,131	77.5%	303日	57
19年度	14,834	1,533	16,367	5,740	22,107	117.3%	304日	73
18年度	10,466	1,225	11,691	7,148	18,839	114.4%	304日	62

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

常設展示を補うテーマや新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民が横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように、展示関連講座を開催し、生涯学習活動を支援しました。

地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「みんなでエキスポ ー小さな万国博 覧会ー」 H20.6.5(土)～ H20.8.31(日) 会期76日	大人 400円 小中 250円	3,423人 1日あたり 45人	開館5周年を記念し、ユーラシア文化館と都市発展記念館の存在を広くアピールすることを目的に、 市民や企業から「思い出の宝物」を募集し、展示した。 ①「宝物」募集への応募総数 167件（最終出品161件） ②パネル展示「旧横浜市外電話局の80年」「5年間の歩み」会期中実施 ③ 鉄道写真展「横浜発ー日本を走る／日本発ー大陸を行く」会期中実施 ④ 「ハマ発 Newsletter」「News from EurAsia」合併特別号の発行 発行部数：5000部、定価：300円 ⑤ 日本大通り URANIWA-Labo 6/2(土)、8/22(土)～23(日) 参加者：計220人 ⑥ 夏休み子どもウォーク「家族でめぐる夏の山手歩いて学んで美味しい！」 7/20(日)、27(日)、8/3(日) 参加者：計20人
企画展 「横浜ステーション物語～そこは昔、海だった・・・」	一般 500円 小中 250円	7,053人 1日あたり 63人	明治・大正から昭和まで、横浜の鉄道と駅、まちとの関わりの歴史を、写真や地図などの資料を中心に紹介した。 ① 展示図録の発行

<p>。」 H20. 9. 13 (土) ～H21. 1. 12 (日) 会期100日</p>			<p>発行部数：1300部 定価：1700円</p> <p>② 展示解説および長編記録映像の特別上映会 10/12(日)、11/23(日)、12/7(日) 参加者：計132人</p> <p>③ 開通5周年コンコース写真展「みなとみらい線各 駅停車」、10月11日～2月22日、日本大通り 駅コンコースにて</p> <p>④ ペーパークラフト・コーナー「切って！貼って！ 電車を作ろう」の設置</p> <p>⑤ 鉄道書籍フェアの実施</p> <p>⑥ 横浜線開通100周年記念講演「横浜線と沿線の あゆみ」 10/4(土) 緑図書館</p>
<p>企画展基礎調査</p>			<p>次年度開催予定企画展「横浜建築家列伝」(仮称)の 基礎調査を行った。</p>



企画展「みんなでエキスポ」



「日本大通りURANIWA-Labo」



夏休み子どもウォーク



企画展「横浜ステーション物語」

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
20年度	6,533	3,943	10,476	106.8%	176	60
19年度	7,055	2,750	9,805	76.1%	100	98
18年度	7,579	5,312	12,891	339.1%	151	85

※都市発展記念館とユーラシア文化館は企画展示室を共用しており、都市発展記念館は、18年度、20年度は2回、19年度は、1回の企画展示を開催しました。

(3) 普及事業の実施

名称/開催日	参加者数	事業内容
観光人材育成講座 「横浜博士になろう」	70人	観光ガイドを目指す市民のための現地ガイド付き講座 横浜ボランティアガイド協会、横浜コンベンションビューロー、 横浜開港資料館との共催 2/15(日) 「外国人も歩いた東海道」 吉崎 雅規
放送大学面接授業 「横浜開港150周年・ 交通と交流」	30人	放送大学・ユーラシア文化館との共催講座 放送大学神奈川での面接授業および都市発展記念館・ユーラシア 文化館の展示見学 12/13(土)・14(日)

(4) 新聞への記事連載

新聞社名/掲載日	事業内容等
読売新聞への記事連載	読売新聞の連載企画「開港150年をみる」に、開港資料館と共同 で記事を連載。 〔掲載記事〕横浜公園、山下公園、横浜駅など

(5) 出版・広報

項目	事業内容
印刷物作成	横浜都市発展記念館企画展示ポスター・チラシ 横浜都市発展記念館催し物案内(リーフレット) 館報『ハマ発Newsletter』第11号(10,000部)
優待カードの発行	名称:「EAハマ発カード」、年会費:1500円 リピーター誘致のため、オリジナルグッズ割引特典付きの年間パ スの販売を開始した。
その他広報	日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 JR東海道線車内広告の掲出(企画展関連、11月) インターネットでの施設案内 テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内TVK「Hi!横浜情報 局」、FMサルースなど) 新聞・雑誌への施設案内掲載(神奈川・朝日・読売・日経)

	<p>タウン情報誌、旅行情報誌、広報誌等への施設案内掲載（「PLNET かながわ」「ヨコハマ文化情報」「ぱど」等）</p> <p>市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布</p> <p>県外都市旅行代理店への施設説明</p> <p>スタンプラリー等による集客</p> <p>フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR</p> <p>チャレンジラリー・シートの作成・配布</p>
--	--

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
ホームページ運営	<p>既成ページの管理</p> <p>新着情報の発信</p> <p>企画展示案内の更新</p> <p>館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載。</p>
メールニュース配信	<p>希望者に対してメールニュースの配信を実施した。今年度は情報量をほぼ倍に拡充し、読者から横浜の思い出話を募集して発表するなど、双方向のメディアとしての活用を開始した。</p>
「ハマ発ブログ」の開設	<p>催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーに発信するブログをスタートさせた。</p>
インターネットによる情報公開	<p>財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。</p> <p>都市発展記念館 35,025件（前年度31,841件）</p>

6 管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜都市発展記念館	<p>施設の維持管理</p> <p>主な修繕：収蔵庫空調ダクトへのフィルター増設工事を実施</p> <p>所在地：中区日本大通 12</p>

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つのテーマに即した資料収集を行い、良好な資料保管状況を維持するために、定期的に環境調査を実施しました。また資料の利用促進のため、画像資料のHP上での公開を開始しました。	A
調査研究事業	「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つのテーマに即した資料調査・研究を実施し、その成果を紀要で公表しました。	A
常設展事業	開館5周年記念の新収蔵資料展示や、掘り出し物コーナーでのパネル展など、定期的に展示内容の更新に努め常設展への集客を図りました。入館者数は、前年度比約80%でしたが、当初目標比では90.2%を確保できました。	A
企画普及事業	開館5周年の記念事業として、市民参加型の企画展を開催し、中庭や旧第一玄関など施設内外を活用した関連イベントを実施しました。親子で山手をめぐるイベントも好評でした。また市民に親しみのある鉄道駅をテーマとした企画展を実施し、当初目標を上回る（141%）多数の来館者を得ました。 そのほかりピーター誘致のための年間パスの販売を開始しました。	A
情報事業	メールニュースの大幅な内容拡充を行ったほか、ブログを新規に開設し、積極的な情報発信に努めました。	A

VI ユーラシア文化館事業

横浜ユーラシア文化館は、ユーラシア諸地域の人々や文化の交流に関する調査研究を行い、その成果を展示、出版、講演会、イベントなどを通して公開する施設です。平成20年度は、都市発展記念館と共に開館5周年を祝う年として、市民参加型の企画展示「みんなでエキスポ 小さな万国博覧会」を両館共同で開催しました。また、初めての試みとして、西アジアという広範囲を対象とした企画展示「西アジアに迫る～江上波夫のまなざし」を開催し、初公開を含む館蔵資料の魅力をアピールしました。さらに、開港150周年にあたる21年度の企画展示「東西交流の証」(仮称)の準備を進めました。

継続して行った事業として、インターネット蔵書検索 OPAC の冊数を増やすとともに、世界的に貴重なメソポタミア楔形文字粘土板文書のデータベースについては、国内外で初めて最新のデジタル画像と文字情報を重ねて見せるデジタル公開法「ガラスビュー」を導入し、ホームページ上で子どもから大人まで広く親しんでいただけるコンテンツを完成しました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

(1) 資料収集・保存

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈184点 寄託53点	主な収集資料：イスラームのミニアチュール、フィリピンの民族資料、書籍ほか
資料の購入	23点	主な収集資料：スタイン「北西インド・南東イラン調査報告」ほか
資料のマイクロ化	0点	主な複製資料：なし
資料の複製公開	0点	
資料貸出	0点	
写真資料の貸出	2点	学校教材として、また、報道機関へ、写真（画像データ）の貸出しを行った。

(2) 文献資料の整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
バジル・グレイ旧蔵書	書誌データの内容を確認した。 入力件数 619件
洋図書・洋図録・和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。 入力件数 270件

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	— (—)	— (—)	67 (3)	53 (—)	120 (3)	2,648 (2,528)
図書	16 (5)	— (—)	80 (332)	— (—)	96 (337)	19,466 (19,370)
雑誌	3 (11)	— (—)	36 (116)	— (—)	39 (127)	7,516 (7,477)
電子資料	4 (—)	— (—)	1 (—)	— (—)	5 (—)	14 (9)
合 計	23 (16)	— (—)	184 (451)	53 (—)	260 (467)	29,644 (29,384)

※ () 内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	燻蒸の急を要する資料がなかったため実施せず。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (寄附行為第4条第1号)

収集資料の整理や、企画展や講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
市内にあるユーラシア関連資料の調査 (2/2年次)	市民が保管するユーラシア各地の資料調査を行った。成果の一部を企画展「みんなでエキスポ」で公開。調査・公開の過程で資料の寄贈を受けた。
企画展示「東西交流の証」関連資料の研究 (1/1年次)	企画展開催のため、イスラーム関係の収蔵資料、文献資料および関連資料の調査研究を行った。成果は次年度企画展示に生かす。
「ユーラシアの造形」関連資料の研究 (3/5年次)	館内外のガラス資料の調査研究を行い、研究成果を企画展示「西アジアに迫る」と図録 (シリーズ『ユーラシアの造形』1) で公開した。
メソポタミア楔形粘土板文書の研究 (6/8年次)	文書のデジタル化完成。次年度のホームページ公開に向けて関連資料や文献の調査研究を継続し、画像と付帯情報を重ねて見せる「ガラスビュー」のコンテンツを完成させた。

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室において、収蔵資料の特別公開、企画展と連動した展示替え、学芸員による解説、各種クイズの実施、および市の広報施策であるテーマ月間に参加することで、積極的な集客を図りました。

（1）常設展示室での実施事業

項目	事業内容
展示更新	企画展に連動した展示替えを行った。 前年度～5/18（日） 「エジプトの小さなガラスの円盤」 展関連展示 6/2（土）～8/31（日） 新収蔵資料「古代エジプト木棺」を展示 1/24（土）～4/12（日） 「西アジアに迫る」 展関連展示
ミニイベント	4月 ミュージアムで遊ぼう Part4～Part6 の開催（1月まで） 6月 フランス月間への参加 解説シートの配布 6月 探検シート（中近東文化センター附属博物館ほかとの連携）の配布（12月まで） 7月 神奈川県立博物館主催「ミュージアム・クイズラリーよこはま」に協力、企画・実施（～8月） 10月 アジアンウェブ月間への参加、ギャラリートーク実施

（2）常設展示観覧者の推移

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	小中	計					
20年度	9,157	1,237	10,394	5,935	16,329	75.5%	303日	54
19年度	14,407	1,371	15,778	5,758	21,635	116.1%	304日	71
18年度	10,368	1,219	11,587	7,044	18,631	126.2%	306日	61



新収蔵資料ギャラリートーク



探検シートに挑戦する参加者

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

常設展示を補うテーマや新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催し、収蔵資料の初公開も行いました。「西アジアに迫る」展では、**展示品のこぶ牛をもとにマスコットキャラクターを作り、ニックネームを募集**したほか、展示に関連したクイズやギャラリートーク、コンサートを実施することで市民が国内外の歴史や文化をより身近で興味深く感じてもらえるように工夫しました。ニーズの把握・顧客満足度を高めるためのアンケート調査も継続しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「エジプトの小さな ガラスの円盤」 H20. 1. 26(土)～ 5. 18(日) 20年度会期 42日	一般 500円 小中 250円	20年度 1,952人 1日あたり 46人	日本初公開のガラス資料などを通して、珍しい中世イスラーム時代のエジプト都市生活を紹介した。 ①講演会「中世エジプトの都市とくらし」 イスラーム考古学研究所との連携により、中世イスラーム時代の都市生活をテーマに講演会を実施した。 4/26(土) 参加料：1,000円 参加者：119人
企画展 「みんなでエキスポ ー小さな万国博覧会 ー」 H20. 6. 5(土)～ H20. 8. 31(日) 会期76日	大人 400円 小中 250円	3,423人 1日あたり 45人	開館5周年を記念し、ユーラシア文化館と都市発展記念館の存在を広くアピールすることを目的に、市民や企業から「思い出の宝物」を募集し、展示した。 ①「宝物」募集への応募総数 167件(最終出品161件) ②パネル展示「旧横浜市外電話局の80年」「5年間の歩み」会期中実施 ③ 鉄道写真展「横浜発ー日本を走る/日本発ー大陸に行く」会期中実施 ④日本大通り URANIWA-Labo 6/2(土)、8/22(土)～23 参加者：220人 ⑤両館広報誌『News from EurAsia』と『ハマ発Newsletter』拡大合併号(展示資料掲載)の作成 5000部作成 定価300円 ⑥夏休み子どもウォーク「家族でめぐる夏の山手歩いて学んで美味しい!」 7/20(日)、27(日)、8/3(日) 参加者：20人
企画展 「開館6周年 西アジアに迫る ～江上波夫のまなざし～」 H21. 1. 24(土) ～H21. 4. 12(日) 20年度会期 57日	一般 500円 小中 250円	1,881人 1日あたり 33人	館蔵資料を広く公開して館に親しんでもらうとともに、西アジアの文化への理解を深めるため、収蔵資料と遺跡などの写真や映像を展示公開した。展示に関連して市民が参加できるイベントを開催した。 ① ギャラリートーク 会期中の土・日曜日、予約日に実施。 参加者：209人 ② 図録『西アジアに迫る』(シリーズ『ユーラシアの造形』1)の作成 定価：700円 ③ 新キャラクター イランのこぶ牛に名前をつけ

			<p>よう！ 応募総数 281通</p> <p>④ ワークショップ「くさび形文字を体験！」の開催 3、4月の土曜日に実施 参加者：73人</p> <p>⑤ コンサート&トーク「ペルシアの伝統音楽」の開催 ペルシアの民族音楽のコンサートと館蔵資料に描かれた楽器を紹介・解説した。</p> <p>3/29（日） 参加料：1,500円 参加者：85人</p>
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



夏休み子どもウォーク



ワークショップ

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者 (人)
20年度	3,944	3,312	7,256	74.0%	175	41.5
19年度	7,136	2,668	9,804	309.6%	167	58.7
18年度	1,722	1,445	3,167	30.3%	88	36

※ユーラシア文化館と都市発展記念館は企画展示室を共用しており、ユーラシア文化館は、19年度、20年度は2回、18年度は、1回の企画展示を開催しました。



みんなでエキスポ展示風景



こぶ牛「こぶちゃん」命名式

(3) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
常設展関連ギャラリートーク	5～20 人	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として展示室内で作品解説を行った。予約日に実施。無料。
企画展・常設展関連アート&グルメ		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画。展示と食文化を連携させた広報で相乗効果を図った。

(4) 広報出版・情報発信

項 目	事 業 内 容
出版物発行	広報誌「News From EurAsia」10号 発行（10,000部）
リーフレット類作成	横浜ユーラシア文化館展示チラシ作成・配布 横浜ユーラシア文化館催し物案内作成・配布 ミュージアムで遊ぼう！Part 4～6 チラシ作成・配布
優待カードの発行	名称：「EAハマ発カード」、価格：1500円 リピーター誘致のため、オリジナルグッズ割引特典付きの年間パスを販売した。
その他の広報	中区との連携（英文広報誌に企画展情報を掲載） 日本大通駅改札外掲示板へのポスター掲出 日本大通駅コンコースで企画展関連写真展を開催 市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 インターネットでの施設案内 当館ホームページ・携帯サイト・メールニュースでの情報配信 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等マスメディアによる企画展広報 フィルムコミッションに協力し、当館を撮影場所としてPR タウン情報誌、旅情報誌への施設案内掲載 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 旅行代理店とのタイアップ広報 クイズラリー等による集客 チャレンジラリー シート作成配布 館入口設置ボード等によるショップ商品宣伝 アンケート回答者、イベント参加者へのDMによる集客 フランス月間、アジアンウェーブに参加し、広報でも連携
学校連携事業	小学校への出前授業の実施（7／14） 社会科研究会研修会での講演（8／25） 教育委員会指導主事と中学校への広報協議

(5) 実習生の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：6月～8月にかけて4回実施 受入数：12人（各回3名）

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。 文献：館蔵文献の OPAC を公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 45,174 件（前年度 33,874 件）

6 管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

横浜ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜ユーラシア文化館	施設の維持管理 主な修繕：収蔵庫空調ダクトへのフィルター増設工事を実施 所在地：中区日本大通12

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料および文献を収集・整理・分類・公開するとともに、良好な状態で保管するため、環境調査を定期的の実施し、改善しました。	A
調査研究事業	国内外の関連機関と連携して調査研究を行い、最新の成果を展示・広報誌・HP・ギャラリートークなど、様々な手段で公開しました。特に楔形粘土板文書については、成果公表手段として「ガラスビュー」という新しい手法を提供する準備ができました。	A
常設展事業	企画展に連動した展示替え、新収蔵資料の特別公開、市テーマ月間参加、土日・予約日のギャラリートーク、他館と連携した各種クイズ等を実施し、常設展への集客に努めました。入館者数は、前年度比約76%でしたが、当初計画比では90.7%を確保できました。	A
企画普及事業	国内外の関連機関と連携して行った最新の研究成果を、企画展示でわかりやすく公開しました。企画展に関連した新たな事業として、市民参加型の展示やイベントを実施し、「西アジアに迫る」展では、マスコットキャラクターのニックネームを募集するなど、市民が館の活動をより身近に楽しめるように工夫しました。来館者は目標の90%を確保できました。そのほかりピーター誘致のための年間パスの販売を開始しました。 アンケート調査・分析によるお客様ニーズの把握とそれに基づく改善は、引き続き行いました。	A
情報事業	HPを頻繁に更新しました。個々の希望者に対してはメールニュースを配信しました。 アクセス数は、前年度を30%以上上回りました。	A
管理運営事業	収蔵庫空調ダクトへのフィルター増設工事を実施し、適正な空調環境の維持に努めました。そのほかは大きな修繕もなく、適切に施設設備の維持管理を行いました。	A

Ⅶ 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を發揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

常設展示では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うと共に、管理棟事務所2階で公開した北側貝塚の剥ぎ取り資料の解説も実施しました。また、常設展示室リニューアルに向けての準備作業の一環として、保管する出土遺物の整理・分類を行いました。

企画普及事業では、ミニ企画展などを財団他施設と共同で実施しました。また、火起こし体験や勾玉作り、土器作り、キャンプ in 三殿台を継続実施すると共に、土偶づくり教室や勾玉・拓本教室などの新たな体験メニューを提供しました。学校や地域住民が行う行事への職員派遣も積極的に行い連携を図りました。市民協働では新規事業として、市民ボランティアスタッフを養成し、收藏された遺物の再整理に当たりました。また、21度実施の常設展示・遺跡ボランティアガイドの解説実習を実施しました。

管理運営面では、事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理を適切に実施しました。

これらの事業を通して施設の有効利用と認知度・顧客満足度が高まり入場者数も大幅に増加しました。今後も職員が知恵を絞り、近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

各事業報告

1 常設展事業（寄附行為第4条第1号）

常設展示室の維持管理を行うとともに、北側貝塚の剥ぎ取り資料の展示を行いました。また資料の適切な保管を実施しました。

（1）遺跡案内・展示解説の実施

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・遺物展示棟・貝塚剥ぎ取りについて遺跡案内と展示解説を行った。 学校団体 1, 921人 一般・団体：1, 649人

（2）資料保管施設

項 目	事 業 内 容
三殿台考古館收藏庫 (86.2 m ²)	三殿台遺跡及び市内主要遺跡出土の考古資料の保管 遺物を遺跡ごとに整理・分類し、收藏庫及び3個の倉庫に収納した。

2 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

市民や来訪者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）普及啓発

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験教室の開催	280人	随時受け付けている火起こし・勾玉作り体験を開催した。 ・火起こし 248人 ・勾玉作り 36人
夏休み体験教室 火起こし H20.7.5（土） ～H20.8.23（土） 開催 全6回	64人	小学生の親子を中心に、火起こしの起源や方法などを解説しながら、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した（64人）。参加料：100円
夏休み体験教室 勾玉作り H20.7.6（日） ～H20.8.31（日） 開催 全6回	145人	小学生の親子を中心に、勾玉作りをとおして、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した（145人）。 参加料：300円
キャンプ in 三殿台 H20.7.26（土・27日）	28人	小学生とその親を対象に遺跡の住居跡で、火起こしや遺跡解説、原始・古代のお話しなど、宿泊する体験教室を行った。 参加者：8家族28人 参加料：2,000円
土器作り教室	21人	土器作り教室を秋・冬の2回開催した。 秋：9/28・10/5・10/12・11/15 冬：1/18・1/25・2/1・3/7
「私たちの作った土器」展を開催 H20.11.22（土） ～H20.12.7（日） H21.3.14（土） ～H21.3.29（日）	1,340人	土器作り教室の様子をパネルと作品で紹介する展示会、「私たちの作った土器」展を秋と冬の2回開催した。
「大丸遺跡と南区の遺跡」展を開催	93人	六ツ川台コミュニティハウスで行われた「大丸遺跡と南区の遺跡」展を埋蔵文化財センターと共に開催した
土偶作り教室 H20.7.20（日・21日）	23人	小学生（親子可）を対象に土偶作りを行った。 8月30日（土）に野焼を行った。
勾玉・拓本教室 H20.10.26（日）・12.21（日） ・H21.2.22（日）	52人	大人から子供までを対象に勾玉づくりと土器の文様を写し取る拓本の体験を行った。

(2) 学校・地域連携

項目	参加人数	事業内容
岡村小学校地域交流クラブ	22人	地域交流クラブの「昔しらべクラブ」で、講師を務めた。 5/22(火)～11/20(火) 全8回
サマースクール支援	47人	サマースクール活動支援で、講師を務めた。 7/31(木) 磯子小・上大岡小 参加者合計：28人 8/26(火) 南小学校 参加者：26人
土偶作り指導	12人	能見台キッズクラブ土偶づくり教室、野焼きを実施した。 1/9(水)、1/12(土)、2/6(水) 全3回
土器作り指導 H20.11.5、7.12	74人	岡村小学校6年生の「総合的な学習」に協力し、土器作りを指導した。
職業体験の受け入れ H21.1.29・2.25～27	9人	近隣中学校の「職業体験学習」に協力した。 1/29(木) 岡村中学校2年生 4人 2/25～27 横浜国立大学附属中学校2年生 1人 1/26(木) 岡村中学校1年生 4人
社会体験研修の受け入れ H20.7.8月 5日間	1人	小学校新任教員の社会体験に協力した。 瀬谷養護学校教諭 1人
博物館実習の受け入れ 20.12.20(土)～26(金)	1人	大学の博物館実習生を受け入れた。



地域交流クラブの活動・イノシシ狩り



土偶作り教室

(3) 市民協働事業

項目	事業内容
住居址遺物の水洗い・接合・復元の実施	遺物整理ボランティアの手で住居址遺物の水洗い・接合・復元。462人が参加した。48軒の住居址遺物の接合・復元を見る
遺跡ガイドボランティアの解説実習の実施	遺跡ガイドボランティアの解説実習 2/21 8人 3/26 3/27 2人

(4) 広報出版

項目	事業内容
チラシ類の作成	埋蔵文化財センター・横浜市歴史博物館との連携で「よこはま古代人ワールド」チラシを作成 年間事業チラシ・土器づくり教室等のチラシを作成
その他広報	インターネットによる情報提供 一般新聞・雑誌等への広報掲載による広報 市報の区版への情報提供 FM放送への情報提供

3 三殿台考古館管理運営事業（寄附行為第4条第7号）

三殿台考古館の管理運営を行いました。

(1) 自動販売機の設置

- (2) 記念品缶バッジの作成及び販売 6,000個作成 販売価格1個100円
20年度売上 1390個 139,000円

(3) 三殿台考古館の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
三殿台考古館	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目 主な修繕：事務所棟屋根雨漏り修繕
三殿台遺跡	国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理 主な修繕：竪穴住居保護棟屋根雨漏り修繕

(4) 三殿台考古館施設入場者の推移

項目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市三殿台考古館（人）	17,725	15,225	16,178

(5) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市三殿台考古館（円）	43,048	32,032	24,464

(注) 平成18年4月から自動販売機1台を新設。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
常設展事業	常設展示室の維持管理を行うと共に、学校団体などの見学者に展示解説を実施しました。また、管理事務所2階を常設・収蔵品展示室として、当遺跡の北側貝塚の剥ぎ取り資料の展示と解説を継続して実施しました。常設展示室では土器づくり教室で製作した土器の紹介展示を行いました。入場者数は前年比16%の増加となりました。	A
企画普及事業	年間を通して土・日曜日に火起こし・勾玉作りを開催し、夏休みには土偶作りなどの各種体験教室やキャンプ in 三殿台を実施しました。また、学校や地域学習の支援にも講師を派遣し、地域との連携を図りました。市民協働事業としては、19年度年に募集した遺物整理ボランティアの活動が行われ、延べ462人の参加と48軒分の遺物の接合・復元を行いました。21年度より実施の遺跡ガイドボランティアの解説実習を実施しました。さらに、初めて博物館館務実習生1名を受け入れました。各種事業は参加者の満足度も高く、好評を得ました。	A
管理運営事業	遺跡内の芝生・樹木、事務棟・展示棟・竪穴住居址保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理を適切に行いました。遺跡内の芝生については、職員が刈り込みを行うなど経費の節減に努めました。また、自動販売機の売り上げも30%以上増加するとともに、記念品用缶バッチ・縄文ペンダントを製作し、収益の向上に努めました。	A

Ⅷ 特別会計事業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

本年度は、横浜市の指定管理者として3年目になり、歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。

開港資料館喫茶室も昨年から開店し、来館者だけでなく、地域のビジネスマンにもご利用いただいております。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

各事業報告

1 歴史博物館事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。
- ③ オリジナル商品を開発した。

（2）来館者駐車場の経営

条例改正に伴い、駐車場料金は利用料金となったため、7月からは一般会計事業へ移行。

（3）自動販売機（5台）の設置

2 開港資料館事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

絵葉書、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売した。

（2）自動販売機（1台）の設置

（3）喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

3 都市発展記念館・ユーラシア文化館事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 絵葉書、アートクリップ、企画展図録等を販売した。
- ② 吉田初三郎鳥瞰図2種、よい子の交通双六、円筒印章アクセサリなど、新商品を開発した。
- ③ 開館5周年記念グッズを製作、販売した。
- ④ 各企画展、フランス月間、アジアンウェーブ等に合わせ、商品のラインナップを大幅に変え、ショップの「目新しさ」を保つよう努めた。

(2) 自動販売機 (1台) の設置

<各事業の推移>

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市歴史博物館 (千円)	8,999	9,384	9,489
横浜開港資料館 (千円)	10,555	7,733	9,134
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館 (千円)	7,542	7,158	5,216

(2) 駐車場の経営 (6月まで)

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。条例改正に伴い、駐車場料金は利用料金となり、7月から一般会計の事業となりました。(館内32台、屋外140台)

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
利 用 台 数 (台)	2,066 (7,341)	9,557	12,422
月あたり利用台数 (台/月)	689 (612)	796	1,036
料 金 収 入 (千円)	929 (3,014)	3,850	4,939

20年度実績数は、6月までのもの。()内は年間の実績。

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
横浜市歴史博物館 (千円)	430	459	555
横浜開港資料館 (千円)	107	106	51
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館 (千円)	86	81	74

(4) 喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館付属棟において、喫茶室を営業しました。

項 目	平成20年度	平成19年度	平成18年度
喫茶室委託料収入 (千円)	2,205	2,353	—

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	ミュージアムショップは、歴史博物館の各事業にあわせた商品陳列やセールの実施、オリジナルグッズの開発などを行い、売上の向上に努めました。しかし、売上は昨年度より減益となり、当初収入見込みの95%でした。また、自動販売機手数料も収入見込みの86%となりました。	A
開港資料館事業	開港150周年プレイベント等により集客数も伸び、書籍等の売上也向上しました。	A
都市発展記念館・ユースラシア文化館事業	開館5周年記念オリジナルグッズや、企画展示に関連づけた商品の仕入れ、ディスプレイを行い売上げ向上に努めました。	A

会 議 次 第

(理事会用)

1 理事長あいさつ

2 出席者数の報告・定足数の確認

3 議事録署名人の選出

4 議 事

(1) 議案審議

第1号議案 平成20年度事業報告(案)

第2号議案 平成20年度決算(案)

(2) 報告事項

報告事項1 資産運用について

報告事項2 公益法人制度改革について

(3) その他

会 議 次 第

(評議員会用)

- 1 理事長あいさつ
- 2 出席者数の報告・定足数の確認
- 3 議長の選出
- 4 議事録署名人の選出

5 議 事

(1) 議案審議

第1号議案 平成20年度事業報告(案)

第2号議案 平成20年度決算(案)

第3号議案 理事の選任(案)

(2) 報告事項

報告事項1 資産運用について

報告事項2 公益法人制度改革について

(3) その他

平成21年度 第1回
財団法人横浜市ふるさと歴史財団
評議員会 議案書

日時 平成21年6月30日（火） 10時30分

会場 横浜市歴史博物館 研修室

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

平成21年度 第2回
財団法人横浜市ふるさと歴史財団
理事会 議案書

日時 平成21年6月30日（火） 14時00分

会場 横浜市歴史博物館 研修室

財団法人横浜市ふるさと歴史財団